

2015

フジテレビ
CSR報告書

Fuji Television CSR Report
2014.4 - 2015.3



私たちに できること。 もっと、もっと。



ひまわり笑顔のサイクルプロジェクト

2014年夏のイベント「お台場新大陸」で3,000本のひまわりを咲かせて来場者に楽しんでもらいました。ひまわりの種は福島から取り寄せ、社員・スタッフや「スーパーニュース」の出演者が中心となって丁寧に植え、育て、花を咲かせました。花が終わったあとは種を採取、再び福島に戻して花を咲かせたり、エコバイオ燃料として再利用される予定です。こうした活動を通じて「福島とお台場を笑顔のサイクルでつなげたい」…そんな思いで実施したプロジェクトです。



▶「お台場新大陸」については19ページに記載



編集方針

本報告書はフジテレビが2014年4月1日から2015年3月31日までに実施したCSR活動をまとめたものです。2014年度も、本業である放送事業とエンターテインメントを生かして、多岐にわたる活動をおこなってきました。活動内容はホームページを通じて随時公表していますが、本報告書は皆さまによりわかりやすくお伝えるために編集し、まとめたものです。ホームページと合わせてご覧いただければ幸いです。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

ご意見・ご感想などございましたら是非お寄せ下さい。
フジテレビ放送文化推進局 CSR推進室
✉ csr.ss@fujitv.co.jp



トップ メッセージ

CSR(社会的責任)で何ができるか——を思うとき、まず「テレビ」ができることってなんだろうと考えます。日本民間放送連盟の放送基準に「公共の福祉、文化、産業経済、平和に寄与することを使命とする(略)」と記しているように、テレビ局にとって、放送事業それ自体がCSR、社会的責任です。

テレビは、放送番組を通じて事実を正確に迅速に伝えることと同時に、見る人を笑わせたり、好奇心を刺激したり、時には涙で感動させて人の心を動かします。フジテレビでは、放送だけにとどまらず、テレビが得意とする「人を楽しませる、喜ばせる力」を最大限に活用して、リアルなコミュニケーションを地域社会とおこなっています。

この報告書は「私たちにできること。もっと、もっと。」をスローガンに、2014年度、子どもたち、学生のみなさん、障がいのある方、災害に遭われた方々、その他たくさんのさまざまな人たちと実際に触れ合った活動の記録です。

CSR活動は、私たちが“社会と共に歩んでいく”ために、本業である放送と並ぶ大切な両輪。

これからも変わらず“明るく楽しい、正確で安心な”喜びや感動、情報をお届けし、皆さまの暮らしに寄り添ってまいりたいと思います。

2015年6月
株式会社フジテレビジョン
代表取締役社長

亀山千広

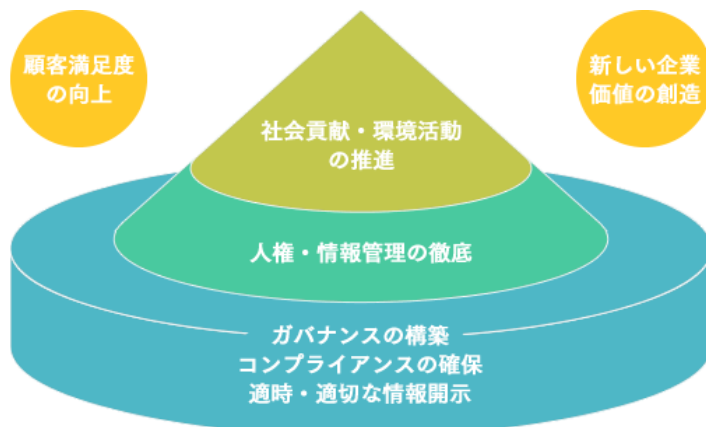
CSR活動方針

フジテレビのCSRへの取り組み

企業が社会の一員である以上、その社会に対して大きな果たすべき役割を負っています。

フジテレビは、その果たすべき責任を認識し、行動することがCSR (=Corporate Social Responsibility) の役割と考えています。

企業の社会的責任は、コンプライアンスを始め、社会貢献活動、環境活動、ステークホルダー（従業員、株主、顧客・視聴者など企業と関わる全ての利害関係者の総称）との関係、人権、情報管理、地域社会への参加、人材育成・職場環境なども含まれ、領域は広範にわたります。




フジテレビでは、CSR活動を通じてメディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月にCSR推進室を新設。更に社長を委員長とした社内横断組織「CSR推進会議」を立ち上げ、各部門から選出されたプロジェクトチームメンバーが中心となってCSR活動を推進・実行しています。またその内容をすべてホームページで公表しています。

CSRの基盤をなす「ガバナンスの構築」「コンプライアンスの確保」に関しては、2006年5月、会社法の施行に対応し「業務の適正を確保する体制（内部統制システム）の整備」を行いました。また、国民共有の財産である電波を預かる放送事業者としての使命を強く認識し、一般より高い法令順守の意識、使命感、倫理観が求められていること等を自覚するなど誠実な業務遂行を求める「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」を設けています。

さらに、メディアを通じて人々に感動を与え、情報文化向上に寄与するという企業理念のもと、絶えず発信する豊かなコンテンツ（情報）資産を各種の脅威から守り、かつ、業務や番組制作において取得したすべての情報は重要かつ貴重な資産であるという認識に立って、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。

2010年1月1日に、従来の社是や「行動指針」にかわる「行動宣言」を新たに制定しました。高い公共性への使命感と放送倫理に対する社会的な責任を強く認識し、次の時代に向けてフジテレビが目指さなければいけない「行動目標」を内外に宣言するものであり、フジテレビ及び社員による企業活動の基本理念となっています。

	<h2>行動宣言</h2>
フジテレビは、 高い公共性と放送倫理に基づく社会的責任を 深く認識し、愛され信頼される放送局を目指します。	
<h3>行動理念</h3> <p>たいせつなこと。 たいせつにします。</p>	
<h3>フジテレビ</h3>	
<h3>行動目標</h3>	
フジテレビは、 社会にとって何が 大切 かを考え、行動します。 地球にとって何が 大切 かを考え、行動します。 あなたにとって何が 大切 かを考え、行動します。	
2010年 1月1日	

CSR推進体制

社長を委員長とする「CSR推進会議」の体制は以下のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を年に一度開催し、年度の活動報告ならびに次年度の活動計画を審議します。



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビのCSR活動の軸となっているのは、各局から選抜されたCSR推進会議プロジェクトメンバーです。月に一度、CSR推進会議実行委員長を交えて活動報告や情報交換を行う会議を開催しているほか、毎週「社外貢献」「社内貢献」をテーマに分科会を開き、メンバーからの企画を検討。“ボトムアップ”型のCSR活動を実施しています。



エコアナ

フジテレビのCSR活動を様々な場面で支えるアナウンサー集団「エコアナ」を結成。イベントの進行や朗読などの社会貢献活動や環境問題の取材・勉強会への出席、ホームページへの寄稿など、「エコアナ」活動を積極的に展開中です。



2015年3月現在 34人

Our Primary Mission

テレビの力で
情報を
感動を
笑いを
届ける。

番組・映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて、
見る人に情報や感動、笑いを提供する。

それが私たちの社会に対する最大の貢献であり、
使命だと考えています。

私たちには「つくりたい」「伝えたい」「届けたい」
思いがあります。

テレビで見る人を少しでも幸せにできたら…
そう願っています。

ENTERTAINMENT



ホンマでっか!?TV

笑

MOVIE



興行収入44億円の
大ヒット

テルマエ・ロマエII

©2014「テルマエ・ロマエII」製作委員会



アウト×デラックス



サザエさん

放送開始45周年を記念した
1時間スペシャルを放送!

©長谷川町子美術館



テラスハウス クロージングドア

©2015 フジテレビジョンイースト・グループ・ホールディングス
電通 東宝 FNS 27社

DRAMA

平均視聴率
21.3%

LIFE !S LIVE

★
★
★

オリエント急行 殺人事件

WHEROUNITY

★
★
★

開局55周年記念
ドラマ

オリエント急行殺人事件



HERO

EVENT

楽



お台場新大陸



Photos : OSA Images Costumes : Liz Vandal
©2009 Cirque du Soleil ©2013 Fuji Television

SPORTS

フジテレビ

新世紀の閃光。

12.26fri・28sun フジテレビ系全国放送

全日本フィギュアスケート選手権 2014

26日(17:00・男子ショー) 27日(6:30・女子ショー) 28日(17:00・女子ショー) / 4K放送・オンデマンド2014 12.29(金)18:00

感動

NEWS



みんなのニュース

情報

朝の情報番組が
人気!



めざましテレビ

INTERNET



とくダネ!

多様性を メディアから発信

バラエティ制作プロデューサー

亀高 美智子 *Michiko Kametaka*

プロフィール

平成5年入社。「ホンマでっか!?TV」「アウト×デラックス」「ベケボンプラス」など数多くの番組を手がけるバラエティ制作のプロデューサー。
プライベートでは2児の母。

フジテレビの番組制作現場には個性あふれる人材が集まっています。まさに多様性とも言えるその中で、20年以上バラエティ番組の制作に携わっている、亀高美智子プロデューサーに、番組作りへの思い、パワーの原動力、自身が考える「テレビの役割」などについて聞きました。

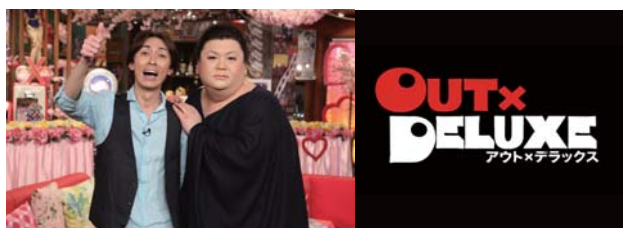
Q 「アウト×デラックス」について

「アウト×デラックス」は、見てくださるあらゆる視聴者の方への人生応援バラエティです。

ここでいうOUTは“ブラボー!”という意味。OUTとGOODは紙一重です。

色々なことにこだわる個性あふれる人たちがたくさん出てくる…皆ある意味自分に正直に生きている人たちです。

これを見て、「へえ～こんな人がいるんだ～ こんな生き方もあるんだ～」と感じてもらうことで、凝り固まった思考回路や目線が変わり、自分自身で気づいていなかったもっと楽しいことを発見するきっかけになればと思っています。



Q 番組スタッフはどんな人たちですか？

「アウト×デラックス」のスタッフ全員、そういう意味では「OUT」ですね!(笑)

以前に比べると女性が多くなりました。「ホンマでっか!?TV」は、私含めプロデューサー4人全員女性、ディレクターは全員男性という構成。番組の会議では、女性にとって当たり前のことが、男性にとっては目からうろこだったり、考え方の違いが見えてとても面白い。女性だけを意識して作ることはしていませんが、「男性寄り」には作らないようにしています。

Q 番組制作で気を付けていることは？

とにかく楽しむこと!スタッフが楽しくなければいいものは作れない。現場の空気がどんよりしているとそれは見る人に伝わってしまいます。

空き時間も番組スタッフ、技術さんや美術さんと談笑していますね。

番組はみんなで作っているんだから。

先日も“亀高班”で「合宿」に行きました。

家族も連れてきて総勢30人!そこでの決まりは、「ADは絶対働かせない」。プロデューサーやディレクターがごはんを作る。みんなでよく飲みにも行きますね～。楽しいです。

写真ですか?撮らないようにしています。

とても外には出せないの(笑)



「アウト×デラックス」のスタッフと(中央が本人)

Q テレビが社会に対し果たすべき役割は？

自分が大学時代に地方から東京に出てきたときに知り合いがいなくて「テレビが友達」だったように、やはりテレビはいつまでも「元気をくれるもの」であってほしい。

テレビで面白い番組を見たら嫌なことも忘れて明日も笑って学校や仕事に行ける!とか、友達と会話が生まれる!とか。

コミュニケーションツールでしょうか。

テレビがなくても、衣食住だけでも人生は成り立ちますが、それにプラスする「活力」をテレビが提供できればと思います。

私自身、とにかくテレビが大好きですから!

わたしたちのCSR活動 大切にしている柱

09 | 未来を担う世代のために

- 09 アナウンサーによる出前授業「あなせん」
- 11 見学案内・仕事体験他
- 12 食育出前授業「ハロー!どっこくん」
- 13 児童養護施設の子どもの自立を支援
- 14 難病と闘う子どもたちを支援
- 15 次世代のクリエイター発掘と育成
- 16 アスリートの育成に貢献
- 17 アウトリーチ・ティーチイン その他
- 18 FNSチャリティキャンペーン



19 | 社会のために

- 19 お台場エリアの魅力向上と活性化
- 21 人気コンテンツを活用したとりくみ
- 22 変わるメディア・多様な楽しみ方を提供
- 23 障がい者支援
- 25 コンテンツ制作力をグローバルに展開
- 26 文化芸術・科学振興



27 | 地球環境のために

- 27 「お台場議定書」
- 28 3本の矢キャンペーン
- 29 環境美化活動
- 30 リサイクル/省資源他



31 | 視聴者とともに

- 31 「新・週刊フジテレビ批評」・番組審議会
- 32 視聴者の声を聞くとりくみ



33 | 災害復興支援・防災

- 33 災害報道・番組と連動した復興支援
- 35 「ずっとおうえんプロジェクト」
- 36 「こども笑顔プロジェクト」
- 37 「いのちを守る」ための防災報道
- 38 BCP対策・防災へのとりくみ
- 39 多メディアで情報発信



40 | 創造を生み出す活気ある職場づくり

43 | コーポレートガバナンス・内部統制・コンプライアンス等

46 | フジ・メディア・ホールディングスのとりくみ

47 | フジ・サンケイグループとしてのとりくみ

未来を担う世代のために

For the Generation of our Future



“伝えるプロ”が子どもたちにコミュニケーションの授業

教育CSR

大事なのは、Face to Faceのコミュニケーション。

「伝え合う力」は、「生きる力」につながると信じて活動を継続

「あなせん」プロジェクト



「あなせん」(＝アナウンサー先生)とは、2005年にアナウンサーが主体となって始めた社会貢献活動です。子どもたちのコミュニケーション能力向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、これまで東京都港区・品川区の公立小学校において発声、滑舌、インタビュー技術など実践的な授業をおこなってきました。2014年4月よりこの「あなせん」プロジェクトをより現在のニーズに即したものに発展させるとともに、実施エリアをフジテレビの放送圏内（関東1都6県）に拡大、内容も充実させました。

あなせん

- 対象：3年生～5年生
- 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]

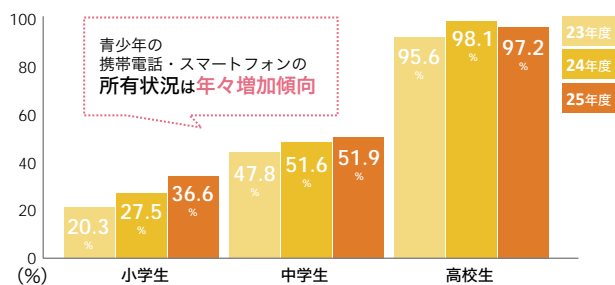
活動目的

近年子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。原因としては

携帯やスマートフォンなどの普及により“Face to Face”のコミュニケーションが減っていることがあげられています。話し方、聞き方、伝え方の「コツ」を現役のアナウンサーが実体験をもとに教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知る機会にもなっています。未来を担う子どもたちの「伝え合う力」は、「生きる力」につながると信じてこれからも「あなせん」を継続していきます。

【青少年の携帯電話・スマートフォンの所有状況】

平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査（内閣府 平成26年2月）より



対象：満10歳から満17歳までの青少年（3,000人）と青少年の同居の保護者
回収結果：青少年1,817人（60.6%）保護者1,993人（66.4%）
（調査対象期間：平成25年11月～12月）

同調査によると青少年の平日1日あたりの携帯・スマホを通じたインターネット利用時間は平均107.4分、1日2時間以上インターネットを利用している子どもは39.8%と全体の約4割に上ります。

これまでの実績 (2005年～2014年度末)

156校 [344クラス]
約10,100人

テレビ、アナウンサーの仕事について映像やクイズ形式で紹介する時間を設けるなど、キャリア教育の要素もプラスしました。



**2014年経済産業省キャリア教育アワード
奨励賞を受賞しました。**

2014年度もたくさんの
子どもたちに出会いました！

13校 1,033人 [34クラス]

- 2014年 6月 品川区立中延小学校 3.4年生
- 7月 NPO法人青少年自立援助センター・
多文化子ども・若者日本語教室
- 9月 杉並区立荻窪小学校 5年生
- 10月 品川区立城南小学校 5年生
千葉市立真砂西小学校 3.4年生 5.6年生
江東区立明治小学校 4年生
- 11月 江東区立東陽小学校 3年生
世田谷区立城山小学校 3年生
- 2015年 1月 品川区立浜川小学校 3年生
横浜市立中川小学校 5年生



子どもたちからの
お礼のお手紙



「あなせん」プロジェクトリーダー
佐々木恭子アナウンサーより

「あなせん」は、先生である私たちにとって、ワクワクでいっぱい
の時間です。目をきらきらさせて聞いてくれる子どもたち。勇気を出して
発表してくれる子どもたち。伝え合うことで、これまで知らなかった面
を発見し合っている子どもたち。

子どもたちの「伝わって楽しい!」「聞くて楽しい!」「やった!」という自信があふれる笑
顔に出会うたび、私たちアナウンサーも自分の仕事に誇りを感じます。

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

テレビのお仕事を楽しみながら学ぼう！

社内見学&体験プログラム のぞいて見よう！フジテレビ

「テレビ局ってどんなところ？」そんな好奇心に応えるべくフジテレビでは、小学5年生～大学生までのグループ（15人まで）を対象に社内見学案内ツアーを無償でおこなっています。番組のスタジオや美術セットの見学、番組が送り出されるまでをわかりやすく説明しています。キャリア教育の一環としてはもちろん、多メディア化が進みテレビ以外の端末で情報を得る人が多くなる中、テレビの魅力を知ってもらいテレビファンを増やす目的もあります。

- 「のぞいて、見て、学べる」約1時間半のコース
- 平日13：30～と15：00～の2回開催。

★
のぞいてみよう！
フジテレビ★



▼詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.fujitv.co.jp/kengaku/index.html>

職業体験型教育プログラム フジテレビのお仕事！めざましテレビをつくらう！！

「フジテレビのお仕事！」は中学・高校の修学旅行や校外活動を対象とした職業体験型プログラムです。2009年秋に開始し5年半で延べ550校、51,400人が参加。「めざましテレビ」のミニ番組を実際に制作することを通じて、テレビ番組を作るのにどれだけのスタッフが関わっているかをクラス全員で体験します。本物の機材を使ったフジテレビならではのオリジナルプログラムで、楽しく学べる社会貢献教育事業（ソーシャルビジネス）です。2014年度は過去最高の約100校、11,000名の生徒が参加しました。



▼詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.fujitv.co.jp/oshigoto/meza/index.html>

アナウンストレーニング講座

フジテレビの現役アナウンサーが大学生や一般の方にプロのコミュニケーションスキルを教えるトレーニング講座。放送で培ったノウハウを若い世代や社会人に向けてシェアするもので、今後は、朗読講座を親子向けに発展させ、「ママアナ」による親子向け音読クラスや読み聞かせクラスを展開する予定です。

デザインフェスティバル “テレビノヒミツ展”



テレビ美術の世界を知ってもらうことで、番組により親近感を持ってもらいたい。そんな思いで2013年から毎年開催しているイベントです。3回目となる2014年度は2月20日～3月1日まで、フジテレビ1階で開催。講演や対談なども盛り込み番組をつくり上げる面白さを美術デザイナーの視点からアプローチ。テレビ美術の仕事を目指す若者を発掘する目的もあります。

バランスよく食べ、体を動かそう！

食育出前授業 ハロー！どっこくん



子どもたちに食の大切さを伝える楽しいイベントを全国展開

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業をおこなっています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん」体操などで構成された楽しい約40分のプログラムです。2010年にCSR活動の一環としてスタートし、FCG総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働で展開しています。

2014年度は沖縄県、福岡県、高知県、石川県に初めて何うなど活動は全国に広がっています。



2014年度は **19**ヶ所に伺い
1,960人の子どもたちに出会いました！

- 高知県 高知さんさんテレビ「春はな祭り」
- 千葉県 浦安市・舞浜幼稚園
- 東京都 パレット保育園大岡山
- 岩手県 田野畑村・若桐保育園
- 沖縄県 那覇市なないろ保育園新都心
那覇市ひらまつ保育園
- 北海道 滝川中央保育所
滝川市まちづくりセンター“みんくる”
- 福岡県 久留米市国分幼稚園
学校法人岩永学園城島すみれ幼稚園
- 高知県 高知市・くるみ幼稚園
高知市・高知愛児園
高知聖母幼稚園
- 宮城県 仙台市ふたばパンビ幼稚園
- 東京都 久我山幼稚園
- 福岡県 久留米市北野おおぞら幼稚園
- 北海道 滝川市・そらぶちキッズキャンプ
- 石川県 金沢市旭町保育園
キッズアカデミー太陽丘保育園



子どもたちからの
お礼のお手紙

2010年～2015年3月 これまでの合計
103ヶ所 約 **10,900**人
の子どもたちに出会いました。

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

“伝える力”で夢の実現をサポート

児童養護施設の子どもたちによる スピーチコンテストに向けアナウンサーが指導

認定NPO法人ブリッジフォースマイル（B4S）が主催する「カナエール」は、児童養護施設の子どもたちの自立をサポートするためのスピーチコンテストです。出場者には大学や専門学校を卒業するまで毎月奨学金が送られるもので、フジテレビアナウンサーが2012年からコンテスト出場のためのスピーチ指導をおこない、子どもたちの自立を支援しています。

「伝える力」は「生きる力」につながるという考えのもと、「あなせん」（出前授業※9ページ）のノウハウを生かしほぼマンツーマンに近い形で実践的な指導をおこなっています。夢を実現できた子が良い「ロールモデル」となり、同じ施設の子どもたちが将来への希望が持てるようになっていくことを願っています。

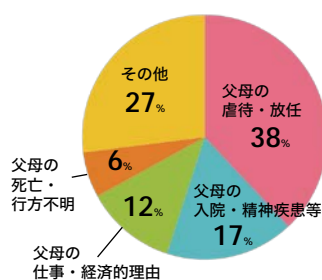


約20人の子どもたちに発声・滑舌の指導

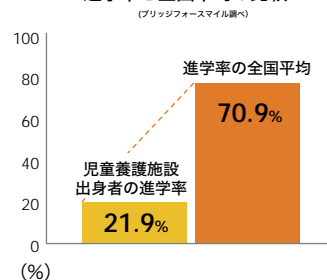


将来の夢について語る子どもたち
2014年6月29日東京大会@日経ホール

児童養護施設の入所理由



児童養護施設出身者の退所後の
進学率と全国平均の比較



スピーチ指導をする川野良子アナウンサー

[DATA] 児童養護施設は、全国に約600施設あり、2~18歳の子どもたち2万9,979人が暮らしてしています。（平成25年2月1日時点）父母の死亡・行方不明による入所は6%ほどで、父母からの虐待・放任が4割弱と最も多くなっています。高校を卒業した児童養護施設の子どもたちの進学率は、21.9%（B4S調べ）と全国平均70.9%の3分1以下。退所後に就職した子どもの約3割が1年3ヶ月以内に離職しているという現実があります。



3年連続で指導をしている奥寺健アナ

高校卒業後本当は進学したくても、資金が足りないとか、早く働いて自立した方がいいという周囲の声などで、夢をあきらめてしまう子が多いようです。子どもの貧困対策法が施行されましたが、生まれ育った環境で将来を左右されない社会の実現のためにも、このプロジェクトに携わる意義は大きいと思います。

ブックフォースマイル

不用になった書籍などを児童養護施設の子どもたちの支援にあてるとりくみ「ブックフォースマイル」に協力しています。2014年度は1,137冊を寄付し総額¥128,883 が支援にまわりました。



難病と闘う子どもたちを支援

自然がいっぱい！北海道・滝川市のキャンプ施設 「そらぶちキッズキャンプ」を支援

そらぶちキッズキャンプとは？

日本国内に約20万人いるといわれている小児がんや心臓病などの難病とたたかう子どもたち。北海道滝川市にある「そらぶちキッズキャンプ」は医療施設を完備し、特別に配慮されたキャンプ施設や自然体験プログラムを設けた夢のキャンプ場です。病気の子もたちやそのご家族が、自然の中で病気のことを忘れ、笑顔で楽しいときを過ごし、「楽しい思い出」「すばらしい仲間」「生きる力」「希望」を得ることができる場所を提供しています。



フジテレビでは「そらぶちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年から朗読会や食育イベント開催などで支援をおこなっています。また「そらぶちキッズキャンプ」は「東京マラソン」チャリティランの寄付先にもなっており、フジテレビが中継を担当する年は放送をつうじて活動を紹介するとともに、沿道で応援する過去のキャンプ参加者をサポートしています。

■ 「東京マラソン2015」チャリティランをサポート



2015年2月23日：「東京マラソン2015」にチャリティ枠で出場した「そらぶちキッズキャンプ」チームに対して、キャンプに参加した子どもたちとともに沿道からエールを送りました。また市民ランナーを紹介する番組内で「そらぶちキッズキャンプ」について紹介するコーナーを設けるなど、多方面からサポートしました。マラソン終了後の懇親会では子どもたちとキャンプ関係者、医療関係者が親睦を深めました。

■ 「そらぶちキッズキャンプ」で食育イベント&ミニライブ！



オリジナル紙芝居
(右：奥寺健アナウンサー)

「東京マラソン」に先立つ2月11日、雪に囲まれた「そらぶちキッズキャンプ」で、滝川市のお子さんと保護者、約50人を対象に食育の紙芝居&「どっこくん体操」をおこないました。このイベントにはフジテレビのキャラクターラフくんも参加！奥寺アナによるピアノ演奏でアニメの主題歌や冬にちなんだ歌をみんなで歌いました。

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

次世代のクリエイター発掘と育成

あこがれの監督と語り合う 学生映画祭「Student Films 7 in ODAIBA」

“映画を志す学生たちに発表の場が欲しい“という声を受け、2009年から開催している学生のための映画祭です。日本映画界の若い才能を育成するため、「作品発表の場」を提供し、第一線で活躍する映画製作者らとの「交流の場」を設けています。



2014年度は5回目となり11月9日に、日本映画大学、多摩美術大学、東京工芸大学、日本大学、武蔵野美術大学、早稲田大学の6大学が参加し、フジテレビ・マルチシアターで学生の卒業制作など7作品が上映されました。映画評論家の佐藤忠男さんとフジテレビ・武内英樹監督、西谷弘監督が各作品の学生監督とのトークセッションを開催。カメラワークから演出の手法まで具体的なアドバイスもいただきました。

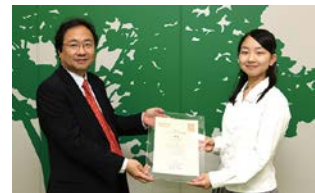
第26回 ヤングシナリオ大賞



この賞は次世代のシナリオライターを発掘・育成することを目的とした賞。第26回は1,807編の応募があり、4回にわたる選考を経て11月に大賞1人・佳作3人が発表。大賞作品は映像化され12月に地上波、その後BS・CSでも放送されました。WEBサイトからの応募もスタートし、さらなる応募数の増加が期待できそうです。

ドラマ甲子園

現役高校生を対象にドラマの脚本を募集する演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、脚本を執筆した高校生本人の演出で、テレビドラマ化されます。第1回大賞受賞作品「十七歳」も、プロのスタッフ、本物の俳優で撮影がおこなわれ「フジテレビTWO ドラマ・アニメ」で放送されました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。



クリエイターズスクール

大学生を対象に、テレビの仕事への理解を深めてもらうため「サマースクール」「クリエイターズスクール」を実施。数日間にわたり第一線で活躍するプロデューサー・ディレクター・アナウンサーによる番組制作に関する講義、収録中のスタジオや副調整室の見学などもおこないました。

青山学院大学「メディア文化論特別講義」をプロデュース

青山学院大学総合文化政策学部の特別講義〔後期〕を情報制作局員がプロデュースしています。2014年度も番組制作者を中心にアナウンサーなども含めた講師を派遣しました。若者の「テレビ離れ」が言われて久しい中、受講生に少しでもテレビに興味を持ってもらい、将来の仲間となってもらえるような手触り感のあるリアルな授業を目指しています。（2014年9月～2015年1月 計15回実施）



アスリートの育成に貢献

高校バレーを44年間継続サポート 春の高校バレー

「全日本バレーボール高等学校選手権大会」としておこなわれるこの大会を、日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟と共に主催し、全試合をテレビ中継しました。

今回はCS放送フジテレビONE TWO NEXT及び、スカチャンで1回戦から準決勝までの男女全100試合を生中継。さらに、インターネットチャンネル「フジテレビNEXTsmart」（※22ページに記載）でも準決勝までの全試合をLIVE配信し、決勝も試合当日に配信しました。「春の高校バレー」をより多くの視聴者にお届けすることで、バレーボールの普及・発展に好影響を与え、次世代を担う全国の高校生アスリートたちの育成にも大きく貢献しました。

※2015年1月5日～11日実施

バレーボールコーチングキャラバン

日本バレーボール協会とともに全国の高校生を対象に実施してきた「FNS春高バレー・コーチングキャラバン」の理念を受け継ぎ、そのノウハウを小・中学生にも広げバレーボールの底辺拡大を図ろうというものです。世界で活躍した元全日本選手や監督が、コーチとして各地の高校バレー部に赴き、高校生選手にバレー技術と共に指導法をレクチャー。更にその高校生たちが地元の小・中学生を指導することで、高校生自身のレベルアップにもなり、小・中・高の各世代が一体となった育成ピラミッドが生まれています。



※活動3年目の2014年度は、被災地（岩手・宮城・福島）に加えて、静岡・長野・岡山でも実施。

スワローズキッズアカデミー

毎週日曜5:40放送



憧れのプロ野球選手になることを夢見る少年たちを放送を通じてサポートしました。

東京ヤクルトスワローズの選手たちが講師役を務め、野球技術のワンポイントレッスンやトレーニング方法、さらには食生活も指導するなど、野球少年たちの健やかな成長に貢献しました。

日本リトルリーグ野球協会への協賛および大会後援

産経新聞、サンケイスポーツと共にリトルリーグ野球を応援しています。リトルリーグの理念に賛同し、40年以上に渡り協会運営のサポートと、公式大会（全国選手権大会や選抜大会等）の支援を続けています。

COLLEGE×SPORT

月1回放送・CSでも放送



テレビ界初の“大学スポーツ専門番組”として、学業と両立し精一杯競技にとりくむ大学生アスリートを応援しま

した。またスポーツを通じて同世代の共感を創出することで、次世代を担う青少年の健全な成長にも寄与しました。

日本サッカー協会「こころのプロジェクト」

サッカー日本代表選手や現役のJリーガー、なでしこリーグの選手や他競技のトップアスリートたちが「夢先生」として課外授業をおこなうJFA「こころのプロジェクト」活動に協賛しています。

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

アウトリーチ・ティーチイン/その他

人気ドラマ「HERO」×道徳授業

9月12日、ドラマ「HERO」の小杉警備員役・勝矢さんが、東京都千代田区立九段小学校に出向き、5年生を対象に道徳の授業をおこないました。検察官という仕事をおこなう真摯な姿をとおして「働くとはどういうことか」をディスカッションなどを通じてみんなで考えました。



映画「バンクーバーの朝日」石井監督と妻夫木聡さんが特別講義



映画「バンクーバーの朝日」の石井裕也監督と主演の妻夫木聡さんが武蔵野美術大学で特別講師を務めました。映像・映画制作を志す学生からの質問に答えるティーチインを実施。質問は 撮影方法、衣装・セットなど多岐にわたり、最後は次世代の映画製作を担う学生たちへ「夢を諦めないで欲しい」とエールをおくりました。

日本香堂主催「ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール 子ども絵画館 in お台場

日本香堂の主催事業の一環である「ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクールの企画・運営をおこないました。フジテレビ本社1階シアターモールに展示された子どもたちの絵は、各地に古くから伝わるお盆の風習などが生き生きと描かれていて、来場者の目を引きました。



アナウンサー朗読CD「フジポッド文庫」寄贈



アナウンサーが朗読する日本の名作文学のCDを、盲学校、老人福祉施設、学校などの団体に寄贈しています。2014年度は小学校、児童館、保育施設などから17件のお申込みがありご希望のCDを送付しました。これまでに合計99の学校や団体に寄贈し、ご活用いただいています。

全国学芸サイエンスコンクール

小・中・高校生の研究・アート及び文芸の振興奨励と子どもたちの感性を高め創造力を伸ばす目的で実施されている「全国学芸サイエンスコンクール」（旺文社主催）に、「フジテレビ学校特別奨励賞」を設けています。2014年度フジテレビ学校特別奨励賞は【絵画部門】茨城県茗溪学園中学校【デザイン部門】静岡県沼津市立今沢中学校【書道部門】千葉県立袖ヶ浦高等学校



世界の子どもたちの笑顔のために



FNSチャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマにおこなっているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社およびBSフジが放送やイベントを通じて募金活動をおこない、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献をおこなってきました。40年以上におよぶ活動の募金総額は約40億円に達しており、アジア・アフリカや世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

活動報告

2014年度の支援国 フィリピン共和国

2013年11月8日に発生した台風30号はフィリピン・レイテ島をはじめとするフィリピン中部の島々に広範囲にわたる壊滅的なダメージを与えました。この台風で被災した人々は1,400万人以上と言われ、そのうち子どもたちは672万人、被災した学校は7,000校以上と言われています。



第41回となる2014年度は、こうした状況にあるフィリピン共和国の子どもたちを支援するため、「とくダネ！」の森本さやかアナウンサーと取材班が14日間にわたり現地取材。被災地の実情を5月20日、21日の「とくダネ！」で放送し、子どもたちの保健・衛生・教育環境の充実のための支援を呼びかけました。また全国のフジテレビ系列局と共に様々な募金活動もおこなっています。

■ 番組による募金活動

- フィリピン巨大台風～被災地レイテ島“笑顔”のワケ
フジテレビ系列局の地上波とCSフジテレビONE、TWO、NEXTで放送
- BSフジで1時間のドキュメンタリー番組「がれきの中の子どもたち」を放送。



■ フジテレビ製作の映画収益からの寄付

映画「テラスハウス クロージングドア」(2015年2月14日公開)の収益から総額600万円を寄付しました。



からくり仕掛けの募金箱「くるくる募金箱」を本社屋に2台設置

■ イベントによる募金活動

- 森本アナウンサーによる現地取材報告講演会
- フジテレビアナウンサーとアイドルリング!!!によるチャリティ朗読劇「イキヌクキセキ」
- 「ふるさと祭り東京2015」会場において全国の地酒ブースを設置。
- 系列各局のイベント
- 社内交流イベント(夏・冬)で約68万円を寄付
- 8月8日「フジテレビの日」フリーマーケットによる募金(※詳細は30ページ参照)
- ディノス・セシールの在庫衣料品・雑貨を社内のチャリティセールで販売し全額を寄付

2014年度の募金総額

5,429万5,318円 (最終寄付金額 4,952万4,408円)

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

社会のために

Contribution to Society

お台場エリアの魅力向上と活性化をめざして

夏の大型イベント 「お台場新大陸」を開催！

毎年夏に皆さまに楽しんでいただける大規模なイベントをフジテレビ本社屋周辺で開催しています。2014年は「お台場新大陸」として7月19日から8月31日までの44日間にわたって実施。エリアも大幅に拡大し、番組と連動した参加型・体感型のアトラクションなどが人気を集めました。総エリア来場者数は455万人。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に国際都市「ODAIBA」をアピールするため、お台場エリア全体の活性化にもつながっていけばと考えています。



■ 会場で子どもたちがボランティア体験！



未来を担う子どもたちに国際感覚とボランティア精神を身に付けて欲しいと、イベント期間中に「こども場内放送ボランティア体験」を6回開催。現役アナウンサーによる指導とネイティブ講師による英語指導を受けたあとに場内アナウンスを実施。イベント会場に子どもたちの元気なアナウンスが流れました。

● 対象：小学生3～6年の3回 中学生3回 各8人 計48人

■ 熱中症対策として“ミストマン”が活躍。今年は社員も！



“イケメン”ミストマン

熱中症を防ぐために毎年“ミストマン”が活躍しています。ミスト状の水を振りまき来場者の心を癒すと同時に、救護室の利用者の削減にもなりました。また2014年は自薦・他薦による社員選抜の“イケメン”（※感じ方には個人差があります）ミストマンも日替わりで稼働しました。

多言語対応：外国人のための英語版マップを作成。
4ヶ国語対応分別ゴミ箱を設置。

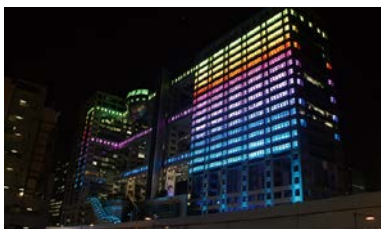
「ひまわり笑顔のサイクルプロジェクト」（※1ページに記載）



多言語ゴミ箱

お台場エリアの魅力向上と活性化

GLITTER8 ～キラキラヒカルフジテレビ～



フジテレビ社屋の壁面全体を使って表現するイルミネーション。2014年度は年間を通じてのイルミネーションショーに加え、夏のイベントなどフジテレビがおこなう各イベントに合わせてオリジナルのショーを展開。世界各国からやってくる観光客をはじめお台場を訪れる人を魅了し、お台場地区の活性化に貢献しました。

初のお台場公演！ダイハツ オーヴォ

カナダに本社を置くシルク・ドゥ・ソレイユによるサーカス公演を開催し、文化芸術を通して国際交流に貢献しました。昨年2月に初のお台場開催となった東京公演は48万人、7月からのお台場公演も初のファンタジー作品として夏休みのファミリーに大ヒット！11月からのお台場公演で100万人を突破し、そして2015年2月から福岡、6月千秋楽公演の仙台まで大ヒットを記録しました。



Photos : OSA Images
Costumes : Liz Vandal
© 2009 Cirque du Soleil • 2013
Fuji Television

世界的なイベントがお台場に！ ULTRA JAPAN 2014



世界最大級のEDM※フェス「ULTRA」の日本公演を9月にお台場エリアで初開催。2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けお台場の活性化を目的とした本公演は、空き地の有効利用、そして合計42,000人の来場者による周辺施設の利用という面で地域活性化に貢献、幅広い客層のお客様同士の交流も多く見られる公演となりました。

※EDM=Electronic Dance Music

T-SPOOK～TOKYO HALLOWEEN PARTY～

お台場を新たなハロウィンの聖地に！と、パレードやライブコンサートなどを開催。様々な客層の来場者が集まり、お台場全体がお祭りのように盛り上がりました。
[2014年10月25日・26日開催]



23万人が来場！トイレ？行っトイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい



エネルギーや水資源などをめぐる環境問題など、現在地球に起きている様々な問題を「トイレとうんち」という切り口から見せる展覧会。トイレ型滑り台やトイレが合唱する「ありがトイレ」も大きな話題になりました。
期間：2014年7月2日～10月5日 日本科学未来館

日本科学未来館『企画展 トイレ？行っトイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい』

第13回ドリーム夜さ来い祭りをサポート

お台場エリアなどで毎年開催されているドリーム夜さ来い祭り。首都圏を中心に約90チームが参加、お台場は踊り子たちや観光客等で埋め尽くされました。共催するフジテレビは、セントラル広場でドリームミュージックステージを企画、演出し、地域活性化に貢献しました。

(11月1日・2日主催：一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団)

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス



「めちゃギントン」教育アプリ

「めちゃイケ」が「教育」ジャンルへ。教育アプリ「おやこで遊ぼう めちゃギントン」を配信。2014年11月～2ヶ月で100万ダウンロードを越え、楽しみながら擬音を学べるコンテンツとして人気です。



(c)長谷川町子美術館

Lien de SAZAE SAN

東京都世田谷区桜新町のサザエさん通りにサザエさんと出会えるカフェ「リアン・ドゥ・サザエさん」をオープン。Lien=絆の意味のとおり、地域の密着型のファミリーを中心とした憩いの場となっています。(2014年4月～)



「めちゃイケ」サービスエリア

「めちゃイケサービスエリア」を東名高速道路・静岡県足柄SAにて展開。物販・飲食・展示等が人気で、1年間で約1,000万人（前年比150万人増）が来場。地元リピート客が多く、地域活性化に貢献しました。(2014年9月21日で終了)



(c)長谷川町子美術館

ありがとう45周年！ みんなのサザエさん展

サザエさん放送開始45周年を記念して、「サザエさん」の世界を直接楽しんでいただく特別巡回展を開催。誰からも愛されている「サザエさん」の世界で、「家族の温かさ」や「絆」を感じてもらいたい

という思いで実施しました。全国30ヶ所以上巡回中。
2013年10月16日～2015年9月まで（予定）

人気コンテンツを
活用したとりくみ



ちびまるこちゃんカフェ

アニメ「ちびまる子ちゃん」が2015年1月に放送25周年を迎えたことを記念し、フジテレビ1Fに「ちびまる子ちゃんカフェ」をオープン！おなじみの登場人物をモチーフにしたメニューは、思わず微笑んでしまうようなものばかり！温かく落ち着いたデザインで、老若男女問わず多くの人がくつろげる空間です。(2016年3月まで)



紙兎ロペのシーサイド商店街

夏のイベントで好評だった「紙兎ロペ」の世界を、新東名高速・駿河湾沼津サービスエリアでイベントショップ&カフェとして展開。静岡の食材を使ったオリジナルメニューや、沼津でしか買えない限定グッズを販売しました。(2014年11月8日～)



(C) 松井優征 / 集英社・アニメ「暗殺教室」製作委員会

「暗殺教室」がZ会とコラボ！

人気漫画を原作とした「暗殺教室」と通信教育大手のZ会がコラボ。アニメでは物語の舞台となる中学校の授業内容をZ会が監修、アニメに登場する授業内容のテスト問題がつくられたり、オリジナル下敷きなども登場し、がんばる小・中学生を応援しました。



プラスセブン

ドラマやバラエティ番組を放送終了後から最大7日間で無料でネット配信するサービス「+7」をスタート。パソコンやスマートフォンで手軽に視聴することができ、テレビ視聴形態の多様化に伴うサービス向上と、地上波テレビのリアルタイム視聴につなげていくことを目的としています。



**全部見たい！そんなニーズに
応えるために
ゴルフトーナメントを
フル中継！**

2014年は地上波、BSフジ、CSフジテレビONEの3波をフルに活かし「42ndフジサンケイクラシック」をリレー生中継。「フジテレビONE スポーツ・バラエティ」では、ファンのニーズにあわせ生中継枠を大幅に拡大し、大会4日間で30時間にわたり放送しました。



気になるサービスが飛び込んでくる！

メディア連携アプリ「メディアトリガーplus」を(株)フジミックと共同開発。「ラジオ・テレビ放送」「展示会等の集客催事」「新聞・雑誌などの誌面」と連動し、スマホやタブレットにアプリをインストールすると、関連コンテンツやクーポンなどの特典が自動的に入手できるサービスです。



第4のテレビ

「フジテレビNEXTsmart」開局

CS放送「フジテレビNEXT ライブ・プレミアム」の同時サイマルをベースにした24時間ライブストリーミングのインターネット有料チャンネルを2014年3月に開局。PC、スマホ、タブレットなど、インターネット環境があれば、どこでも視聴可能。地上波、BS、CSに続く「第4のテレビ」として、「F1グランプリ」「NBA」「ブンデスリーガ」などのスポーツコンテンツ、「FUJI ROCK FESTIVAL」ほか大型フェスやコンサート、「坂崎幸之助のももいるフォーク村NEXT」等のオリジナル音楽コンテンツをどこにいても視聴いただける環境を通じて提供しました。

変わるメディア
ニーズにあった
多様な楽しみ方を提供



過去にタイムスリップ！

「昔の景色を見てみたい！」タイムトリップビューは、そんな探求心を満たすインタラクティブコンテンツです。タブレットやスマートフォンなどをかざすと、あら不思議！いにしへの風景が浮かび上がります。2014年度は日本橋地域を中心に制作、夏に江戸東京博物館で体験イベントをおこないました。この派生ソフトとして奈良県観光誘致用に開発した「なら平城京ぶらり」は2014年度グッドデザイン賞を受賞しました。

とにかく美しい！次世代放送4K・8K

高画質・高精細の次世代テレビ4K技術で、長崎県の「軍艦島」「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」など世界文化遺産の登録候補の撮影収録をおこないました。新規格の技術検証に加えて、文化遺産の高精細アーカイブにもとりくんでいます。



新周波数アンテナの開発

マラソン中継でランナーの走る姿を視聴者に届けるために必要な中継用の新周波数アンテナを、他の放送局に先駆けて新規開発しました。国策である周波数移行にも対応し、限りある電波の有効利用にも貢献しています。

あらゆる人にコンテンツを楽しんでもらうために

テレビ放送における障がい者支援

字幕放送

7時～24時のほぼすべてのVTR番組【生放送以外の番組】に字幕を付与しています。

字幕放送とは、主に聴覚障がい者や高齢者などテレビの音が聞こえにくくなった方々にテレビ番組を楽しんでいただくために、テレビの音声を[文字]にして画面に表示する放送のことです。ドラマのセリフやバラエティ番組のトーク部分はもちろんのこと、ドアを叩く音や携帯電話が鳴る音などの効果音も字幕で表示し、番組内容を十分ご理解いただけるようにしています。

生放送番組については、ニュース、情報番組を中心に[生字幕＝ほぼリアルタイムで字幕をつけること]の付与を進め、さらにこれまで難易度が高かったため付与しなかった生放送のバラエティや、長時間に及ぶスポーツ中継などについても積極的に字幕をつけています。



字幕放送



生字幕をつけている様子

▶詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.fujitv.co.jp/company/action/jimaku.html>

解説放送

「解説放送」は主に目の不自由な方々にテレビを楽しんでいただくために副音声を使って画面の解説をおこなうものです。セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。現在、金曜や土曜の単発ドラマや「ごきげんよう」「はやく起きた朝は…」「ちびまる子ちゃん」「サザエさん」などの番組に解説放送を継続的に付与しており、今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう促進に努めています。

▶詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.fujitv.co.jp/company/action/kaisetsu.html>

手話放送

「テレビ寺子屋」（毎週日曜5:10～5:40放送）にて手話放送をおこなっています。

■ 映像コンテンツにつける字幕

ドラマをDVD化する際には、制作時に聴覚障がい者向けに字幕を付けています。

■ CM字幕放送対応

字幕付きCMのトライアル期間が終了し、次の段階に移行すべく複数社が提供する番組での放送に向けて作業を進めています。

■ 字幕放送推進

字幕放送をリアルタイムでフジテレビの番組ホームページ上に表示させるシステムを開発し、2012年7月1日から本格運用、現在も継続しています。

映画作品における障がい者支援

日本語字幕・音声ガイド

フジテレビが製作している映画には、聴覚障がい者のお客様にもご鑑賞いただけるよう、日本語字幕を付けて上映し、後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕をつけています。

また、視覚障がい者のお客様にも映画をお楽しみいただけるよう《音声ガイド》を付けたバリアフリー上映も増えてきています。

音声ガイドとは？

映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障がい者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが、《音声ガイド》の役割です。



社内でバリアフリー試写会を開催

2014年度フジテレビが製作したこれら3作品は、日本語字幕に加え、《音声ガイド》も含めたバリアフリー上映をおこない、障がいのあるお客様にもお楽しみいただきました。



「バンクーバーの朝日」の音声ガイドを担当した斎藤舞子アナ

■ 2014年度におこなった音声ガイド付き上映



(C) 2014 「春を背負って」 製作委員会

「春を背負って」(2014年6月14日公開)

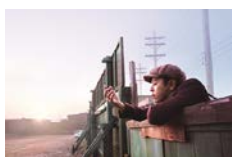
監督：木村大作
脚本：木村大作／瀧本智行／宮村敏正
原作：笹本稜平「春を背負って」(文藝春秋刊)
全国9劇場にて実施。
総入場者数 338人
うち障がい者(同伴者を含む) 263人



(C) 2014 F/T/K/D/K/K/A

「舞妓はレディ」(2014年9月13日公開)

監督・脚本：周防正行
全国7劇場にて実施。
総入場者数 426人
うち障がい者(同伴者を含む) 153人



(C) 2014 「バンクーバーの朝日」 製作委員会

「バンクーバーの朝日」

監督：石井裕也 (2014年12月20日公開)
脚本：奥寺佐渡子
全国7劇場にて実施。
総入場者数 448人
うち障がい者(同伴者を含む) 221人

本を音声化する活動もつづけています！

～アナウンサーによる蔵書朗読録音ボランティア～



2009年より「日本点字図書館」にて、アナウンサーが蔵書朗読録音ボランティア活動を続けています。点字図書館では、視覚障がい者にも読書に親しんでもらうため書籍を音訳し録音、インターネットで配信しています。これまでに録音を完了した蔵書は27冊。

2014年度音訳が完了した作品：「勝負心」「武人の本懐」「心に火をつける言葉」
(塚正幸アナウンサー)

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

強みであるコンテンツ制作力をグローバルに展開

海外への番組販売や共同制作・フォーマット販売

日本のドラマなどのコンテンツは海外から強いニーズがあることから、フジテレビが制作するドラマや、番組のフォーマットなどを積極的に海外に発信・販売しています。

2014年度は日本のテレビ局としては初めて、中国とネット配信向けのオリジナルドラマを共同制作。フジテレビのプロデューサーが自ら演出を担当し、オール北京ロケで制作した「不可思議的夏天」（＝不思議な夏）」は、中国全土で配信され6,000万視聴を超える大ヒットを記録、日本を含む世界35ヶ国でも配信されました。また、フランスの著名制作会社と共同開発したフォーマット「SENSATIONAL」は世界最大の国際番組見本市MIPCOMで発表された後、ベトナムでの放送が決定。今後、各国での展開が期待されます。



©不可思議的夏天製作委員会

2015年4月からは海外向け公式HPに、プロデューサーのプロフィールなどを掲載した専用ページを設けるなど、今後も独自の制作能力を武器にグローバルなビジネス展開をおこなうとともに、海外の制作者との交流を深めていきたいと考えています。



フジテレビが放送した番組を海外賞に出品

フジテレビの番組を世界各国の番組コンクールに出品し、自社のコンテンツ力を海外にアピールしています。2014年度は新たに3つの海外賞（「シカゴ国際映画祭テレビ賞」「国際デジタル・エミー賞」「FIPA」）に出品し、出品先を13の賞に広げました。（出品番組数：計26作品）

■ 2014年度の主なノミネート・受賞作品

- パンフ世界メディア祭（北米最大級の国際テレビ番組コンクール）
ドキュメンタリー「ザ・ノンフィクション わ・す・れ・な・い～明日の君に逢いたい2013夏～」
人道・検証番組部門ノミネート
- 国際デジタルエミー賞 初出品作「人狼～嘘つきは誰だ？～」ノミネート
- ニューヨーク・フェスティバル
連続ドラマ「HERO」銅賞受賞
ドキュメンタリー「わ・す・れ・な・い～巨大津波」3年後の新検証」銅賞受賞

お台場エリアの情報を海外に発信

英語・中国語のフジテレビ公式HPやFacebook・Weibo・Youtubeも活用し、企業情報・番組・映画・イベント・海外コンベンション・オリジナル動画などの最新情報を発信しています。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、東京ベイエリアの情報発信をおこなうとともに、お台場を訪れる外国人の利便性の向上に努めています。

海外で日本語放送

NY・LA・ハワイなどの北米や欧州の在留邦人や日系人に日本の国内情報を提供することを目的としてフジテレビの番組を現地で放送する「日本語放送」を、30年以上続けています。

文化芸術・科学振興 本物にふれる機会を提供

美術展

台北・故宮博物院が所蔵する世界最大・最高の中国美術コレクションをまとめて紹介するアジア初開催の「台北故宮博物院展」が、大きな話題を呼びました。またテレビ局ならではの風変わった展覧会「ティム・バートンの世界」なども大ヒットとなり、東京、大阪で40万人が来場、美術ファン、映画ファンを含めた、多くの方々に魅了しました。



クラシック音楽



海外から有名オーケストラを招聘した「TDKオーケストラコンサート2014 マリンスキー歌劇場管弦楽団」、「東芝グランドコンサート2014 オスロ・フィルハーモニー管弦楽団」から、クラシックをより身近に感じてもらえるような公演として「めざましクラシックス」などを開催、日本全国の方々にクラシック音楽の魅力をお伝えしています。

伝統芸能

東京最古の靖国神社境内能楽堂と満開の夜桜のもとに、能・狂言の人間国宝や注目の若手が流派の垣根を越えて集う顔見世新能「奉納靖国神社 夜桜能」や中村勘九郎・七之助の兄弟による歌舞伎舞踊「錦秋特別公演」、歌舞伎の振り付けをほぼ一手に手掛ける藤間流宗家、藤間勘十郎プロデュースによる、日本舞踊の最高峰の公演「明治座 花形舞踊」などを通じて日本の伝統芸能の普及と継承を支援しています。



舞台

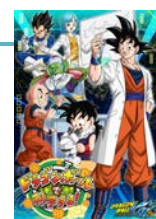


(c)Agathe Poupeney

EXILE、USAの想いからスタートした、舞台ダンスアースプロジェクト「Changes」や、アフリカドラムパフォーマンスの招聘公演「ドラムストラック」、ブロードウェイでトニー賞&エミー賞を受賞し今回が9回目の来日となった「ブラスト！」も大好評！
またパリ・オペラ座バレエの再高位であるエトワールたち自らが企画・プロデュース・出演をする「エトワールガラ」公演を開催。東日本大震災の被災地でチャリティワークショップもおこない、子どもたちに夢を追い続けることの大切さをお伝えしました。

科学

エンターテインメント性の高い企画展に、体験しながら楽しく学習できる“体感型学習アトラクション”を加えた新しいタイプの展示会「科学するシリーズ」を開発。「お化け屋敷で科学する！」は恐怖を、「ウルトラマンで科学する！」は現代から未来の生活・科学開発を、「ドラゴンボールで科学する！」は人気作品の世界感を、それぞれ科学視点から紐解いて、夢を具現化するヒントを提供する展示会を全国各地で展開しました。



次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

地球環境のために

For Environment

臨海副都心チューリップフェスティバル

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するのはもちろん、企業としても環境に配慮した活動をおこなっています。2007年に策定した「お台場議定書」に基づき、全力を挙げて環境対策にとりこんでいます。

お台場議定書

— 今、はじめよう！ —

1 一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベントなどメディアを通じて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供をおこない、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。

2 一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ごみ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達の促進や省エネルギー、省資源などのエコ活動を一緒に行動していきます。

3 一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温室効果ガス削減やごみ分別などについて、目標を定めて活動し、その結果を公表します。さらに、世界の環境活動などの情報を提供し、地球環境保全の成果を一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めていきます。



地球環境改善のためのとりくみ

地球温暖化防止のためのとりくみ

フジテレビでは、地球温暖化防止のための温室効果ガス排出量の削減に計画的にとりくんでいます。東京都の環境問題対策に関する指針「総量削減義務と排出量取引制度」に沿って、2010年度から5ヶ年計画を立て、期間内に温室効果ガス排出量6%削減（2002～2004年度実績の平均値対比）義務を達成するため、省エネ機器の導入やクールビズ、ウォームビズなどの対策を実施しています。またカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト※に対して、当社の炭素管理を情報開示するとともに、気候変動対策にとりくんでいます。

※イギリスの公認慈善事業をおこなっている非営利団体で、世界中の企業から気候変動への対応を質問状にて情報を収集し、必要とする機関投資家へ情報を開示している。

2014年度の結果として、フジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は、18,906（速報値）トンで、6%の削減義務を大きくクリアして23%削減を達成しました。（2013年度は12%削減）

■ 地球温暖化防止「クールアース・デー」環境省ライトダウンキャンペーンに参加

環境省の呼びかけに応じてライトアップ施設の消灯（ライトダウン）に参加し、20時～22時の2時間イルミネーション、外構照明を消灯しました。2003年からこの活動に参加しています。

- ①夏至の夜6月21日「ブラックイルミネーション」
- ②7月7日「セタライトダウン」

全社で地球環境改善のためのとりくみを実施 3本の矢 キャンペーン



リサイクルのリサちゃん

1. リサイクルのためのゴミ分別

オフィス内でゴミの**11**分別を実施
毎週分別率をイントラネットで開示し、
協力を呼びかけた結果
2014年度のゴミ分別率は**80.3%**と目標の80%を
クリアしました。



2. リサイクル（封筒、手提げ袋、文房具用品等の使いまわしなど）

3. CO₂を削減（スイッチオフによって電気の使用量を削減）

の3つを柱とした「3本の矢キャンペーン」で3Rを
推進しています。



「何度もお役に立ちます封筒」を作成

3R

REDUCE
(リデュース)
発生抑制

REUSE
(リユース)
再利用

RECYCLE
(リサイクル)
再生

環境美化活動

地域の清掃活動を続けています

2008年よりお台場エリアの清掃ボランティア活動を継続しています。月2回の定例清掃をおこなっているほか、フジ・メディア・ホールディングス全体での合同清掃活動も年3回開催。さらにお台場エリアに本社を置く企業からなる「東京臨海副都心まちづくり協議会」の清掃活動にも積極的に参加するなど、地域の美化に力を入れています。



「海の森」植樹活動に参加

ゴミと建設発生土でできた東京湾の真ん中にある中央防波堤内側埋立地に苗木を植え豊かな森にしようという「海の森」プロジェクト。この活動に賛同し、2011年から植樹活動に参加しています。2014年度は11月14日と3月28日の2回植樹をおこないました。社員やその家族が集まり、スタジイやえのき、松などの苗木を70本～80本植えました。



20年～30年後に
どんな森になるのかな…

花と緑のフラワーフェスタ

～臨海副都心チューリップフェスティバル～にむけて球根植え



毎年恒例となった花の祭典に向け、1月28日、東京臨海副都心まちづくり協議会の会員有志26社102人が日本有数のチューリップ産地である富山県砺波（となみ）市から取り寄せた30,000球のチューリップの球根を植えました。

フジテレビからも14人が参加し、花開く様子をイメージしながらひとつひとつ丁寧に植えました。

2015年1月28日



球根の向きをそろえ等間隔に植えます。

2015年4月16日



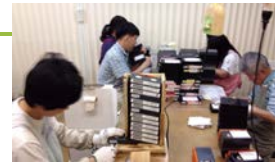
きれいに咲きました！

リサイクル・省資源／その他のとりくみ

リサイクル・省資源への具体的なとりくみ

■ 取材や放送に使用するテープの削減とリサイクル

指定回数使用したテープを破棄する際には、データをすべて消磁し、手作業で分解、部品ごとに仕分けしてリサイクルしています。この作業は、2000年10月からメーカーとノウハウを共有しながらおこなっており、磁気テープは「畳の芯」などになり、プラスチック樹脂は「自販機の取り出しカバー」などになって、再び私たちの生活に役立っています。



また、「めざましテレビ」「とくダネ!」などの情報番組では、資源の有効活用とコスト削減のため、2010年からVTR・HDVを再利用するプロジェクトを実施。再利用テープを使用することで、2014年度は金額にして約3,380万円のコスト削減となりました。さらに報道局では「ファイル化ノンリニア編集システム」で、取材、収録、編集、送出、アーカイブをファイルベース化することでテープレス化、メディアのリサイクルを促進しています。

■ 美術セットの廃材処理・一括管理

産業廃棄物排出の事業者責任を全うするため、2011年度から美術制作局が一括して廃材処理をおこなっています。これにより効率化が図られると同時に、手数料が減り美術費の削減につながりました。

その他のとりくみ

■ 映画製作におけるグリーン電力の購入

フジテレビが製作する映画作品は、グリーン電力証書システムに参加し、映画製作にかかわる電力を購入しています。

※**グリーン電力**とは風力、太陽光、バイオマス、マイクロ水力、地熱などで発電された電気、環境に負荷を与えない電力です。自然エネルギーから作られた電力は、地球温暖化の原因であると言われている二酸化炭素を排出せず安全で枯渇しないエネルギーです。

© 2014年度の対象作品は下記の通りです。

「テルマエ・ロマエII」「春を背負って」「幕末高校生」「舞妓はレディ」「バンクーバーの朝日」「暗殺教室」

8月8日「フジテレビの日」に 全社をあげて大規模なフリーマーケットを開催！



夏のイベント「お台場新大陸」開催期間中の8月8日「フジテレビの日」に、本社屋にてチャリティ・フリーマーケットを毎年開催しています！社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。2014年の売上げは、合計145万1,180円で過去最高となり、これを全額FNSチャリティキャンペーンに寄付しました。このフリーマーケットは恒例の企画として毎年開催しています。

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

視聴者とともに

Interactive Communication with our Viewers



自社批評番組を23年にわたり継続的に放送 「新・週刊フジテレビ批評」

毎週土曜5:00~6:00放送

「週刊フジテレビ批評」は、テレビ番組でテレビに関する批評をする民放初の自己批評番組として1992年に放送を開始しました。2009年には60分間の生放送に拡大リニューアルし、2015年4月で24年目に入りました。

2014年度は様々な事件、事故、災害を始め、選挙報道やバラエティ、ドラマ、ドキュメンタリーなどにおいて「テレビがいかに社会に大きな責任を負っているか」を、専門家やテレビ出演者を招き対談形式で検証しました。また「BPOとは何か?」「番組審議会とは?」など、視聴者に知ってもらうことによりテレビへの理解をより深め「メディアリテラシー」の向上にもつながるような番組作りを続けています。



番組審議会とは? ~番組向上へのとりくみ~



番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき全ての放送局に設置されている審議機関です。

2015年4月現在、有識者で構成された審議委員は10人。月に1回（8・12月は休会）、様々なジャンルの番組を審議対象に委員から忌憚のないご意見や

ご指摘をいただき、番組担当者とのディスカッション等をおこないます。

議事内容は出席者を通じ制作現場へフィードバックし、番組作りに活かされています。また議事録ダイジェストを社内用に共有、概要はフジテレビホームページに掲載する他、「新・週刊フジテレビ批評」内でも放送し社内外に広く公表しています。

視聴者の声を聞くとりくみ

「視聴者の声を聞く」ことの大切さ

テレビ局には、常に高い社会性と公共性が求められています。そして、基本的人権を尊重し、国民の知る権利に応え、言論・表現の自由を守ることが大きな使命です。ただ、不特定多数に向けた放送という性格上、視聴者ひとりひとりの様々な反応をきめ細かく知ることはできません。そのため、視聴者総合センターに寄せられる電話・ホームページへの投稿は、視聴者の方々からのご意見〔賞賛・要望・不満・問い合わせなど〕を直接番組制作者に伝える事ができる大切なものなのです。

視聴者総合センターは、視聴者の皆さまの声に耳を傾け、フジテレビに寄せられたご意見すべてに目を通すことで、テレビを見ている人が今何を思い、何をテレビに求めているのかを肌で感じながら、「視聴者に寄り添う」番組作りをサポートしています。



2014年度にいただいた
視聴者の声

お電話でのご意見	約16万件	1日平均500~600件
メールでのご意見	約26万件	1日平均600~1,000件

「視聴者の声」の社内へのフィードバック

貴重な「視聴者の声」は、毎日（365日）日報として社内の各部署にメールで配信し、社内イントラネットにも掲載しています。「視聴者の声」は、フジテレビの最も大切な商品＝番組への直接的な反響という意味で、「寄せられたご意見をそのまま掲載する」＝「視聴者が感じた率直な反応をニュアンスを変えずにそのまま掲載する」ことを基本としています。視聴者の方々の感覚や社会全体の空気を含めてフィードバックし、番組作りの参考にしています。



視聴者の声・週報/モニターレポート

また、日報に掲載した「視聴者の声」の中から、反響の大きかったものや問題点がある、改善すべきと思われるものを週報としてまとめ各部署にメールで配信するほか、週報を1ヶ月分まとめて月報を作成し、番組審議機関への報告用資料としてフジテレビ系列各局にも配布しています。

社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは制作担当者に届けると共に、社内イントラネットへの掲載や冊子の配布を通じ、社内にも共有しています。また月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換をおこなっています。



社外モニター会議

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

災害復興支援・防災

Support for Reconstruction of the Disaster-affected Areas

岩手県大槌町

「未曾有の大震災を風化させない、復興への道のり取材する」ということが、私たちメディアの社会に対する「責任」だと考えています。
私たちは、報道・情報番組で被災地の現状を継続して取材・放送してまいります。

東日本大震災から4年 数々の特別番組を放送

震災から4年の節目には、「FNNスピーク」や「スーパーニュース」などのニュース番組、「めざましテレビ」「とくダネ!」などの情報番組で、キャスターが現地へ赴き、生中継や特集などを通じて被災地の“今”を伝えました。

■ FNN報道特別番組「震災と原発と日本の覚悟」2015年3月11日放送

「原発」＝福島県の問題と捉えがちですが、福島第一原発で作られていた電力は東京の人たちも使っていました。また事故が起こればその影響は広範囲に及びます。原発は決して特定の地域だけの問題ではないのです。電力の安定供給は大切なことですが、原発が稼働すれば必ず発生する“核のゴミ”の最終処分場は決まっていません。問題を未来へ先送りしたまま、原子力のエネルギーを享受するのか？



番組では、人々の判断材料の拠り所となる正確かつ幅広い情報、多様な視点を提供しました。

■ 「わ・す・れ・な・い ～巨大津波・秒との闘い～ 4年後の“時間”検証」 2015年3月7日放送

「わ・す・れ・な・い」シリーズでは、2011年の8月から過去5回にわたり甚大な被害をもたらした“巨大津波”の挙動を膨大な視聴者映像と証言に基づき、時系列に沿って検証してきました。あの日、間一髪、津波から逃げ切った人たちは何を思い、どんな判断をしたのか？ 6回目となる今回は“地震発生から津波到達までの時間”に注目。津波から生き延びるため、私たちが学ぶべきことは？あまたの津波映像から、人々の“秒との闘い”を検証しました。



【災害報道】 2014年度は広島の大規模土砂災害や御嶽山噴火など大きな自然災害が相次ぎました。こうした災害発生時に「国民にとって有益な情報」「知りたい情報」を迅速かつ正確にお届けしていきます。また2015年1月17日には関西テレビと協力し「阪神・淡路大震災20年報道特別企画」を放送。復興に向けた20年を振り返りながら、震災の教訓を伝えました。

番組と連動した復興支援活動

めざましテレビ

■ 「Tattonプロジェクト」



東日本大震災による津波で、岩手県、宮城県、福島県あわせて19,302ヘクタールが海水に浸かり稲作が不能となりました。そこで、農地に除塩効果があるという綿花を植えて田んぼを再生させようというとりくみが、この「Tattonプロジェクト」です。（Tattonは【田んぼ】と【綿＝コットン】をかけた言葉）朝の情報番組「めざましテレビ」による番組連動型の復興支援プロジェクトで、震災直後の2011年5月から約4年に渡り継続しています。

2014年度の活動

2014年度は、東松島、気仙沼、丸森、福島あわせて圃場面積が2ヘクタールになりました。採れた綿花でゴールデンボンバーのTシャツ、松下奈緒さんデザインのTシャツ、公募したTシャツを販売しました。今年度は新たに川嶋あいさんも参加、植え、除草、収穫作業などをおこないました。



■ 圃場オーナー制度をスタート

また一口一円で自分の農地をもつことができる圃場オーナー制度をスタート。現地に行くことができない方もプロジェクトに参加できるようになりました。

■ 他企業とのコラボレーション

7月からはファミリーマートと連動して、ファミマドットコムからの募金を開始したほか、グッズも店舗で購入できるようになりました。イタリアの服飾メーカーオロビアンコとコラボしたパーカーも大好評。さらに今年度は、ボランティアツアーに企業や大学生が参加するなど、支援の輪も広がっています。



■ 番組などを通じて発信

これらのとりくみは、2014年度「めざましテレビ」で合計8回放送。また、この活動は観光庁の地域振興ビジネスに選ばれており、11月30日には活動を報告するシンポジウムをフジテレビ内で実施。2月には「タビイチグランプリ」一般投票部門第2位となり観光庁から表彰を受けました。

■ 「CHANGE THE WORLD」

宮城県気仙沼市の地元の人たちとのふれあいを通して、復興に向け今何が求められているかをともに探り、形にしていく番組連動プロジェクト。気仙沼にイノベーションを起こすことで、町に再び活気を取り戻せたら…。2014年度は風評被害で売れ行きが4割減ったワカメをアレンジした料理を提案し、売り上げを伸ばしたり、水揚げ日本一のメカジキをレストラン「俺の

フレンチ」「俺のイタリアン」のシェフとコラボして期間限定で都内店舗で提供。さらにプロジェクトマッピングナイトを開催し、3,000人を集客しました。その他、ヨシキリザメを使ったグルメやサメの皮と着物の小物をコラボさせファッションショーを開催するなど、被災地の活性化に貢献しました。



気仙沼「みなと祭り」での3Dプロジェクトマッピング

次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

ニーズに合わせた様々なイベントを開催

わたしたちにしかできないことがある・・・

フジテレビずっとおうえん。プロジェクト

～オリジナルの被災地支援活動を展開しています～

2011年3月末から東日本大震災の被災地復興支援活動を継続しています。

発災直後には、「こどもおうえんプロジェクト」として、物資を直接被災地に届けたり、子どもたちを対象にした食育や朗読イベントなどをおこなってきました。

2012年4月からは、子どもだけではなく大人、お年寄りに支援対象を広げた「ずっとおうえんプロジェクト」を始動。そして2013年からは、被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いを継続しています。



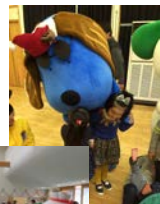
これまでに **153**ヶ所

約 **15,700** 人を対象に実施

■ 2014年度の活動

- 6月 福島県 郡山市・総合児童発達支援センターアルバ
- 7月 岩手県 田野畑村・若桐保育園
- 11月宮城県 ふたばバンビ幼稚園
- 12月福島県 広野幼稚園・広野保育園 かわうち保育園
- 1月 福島県 福島市音楽堂他1ヶ所
- 3月 岩手県 大槌町・みどり幼稚園・おさなご幼稚園
堤乳幼児保育園
- 3月 福島県 富岡町・あだたらつつじ保育施設
とみたさくら保育施設
富岡幼稚園・富岡小学校

- チャ・リーディング&キャラクター・グリーティング
- 食育イベント「ハロー！どっこくん」
- 食育イベント「ハロー！どっこくん」
- ラフくん&ふくたんとクリスマス
- サザエさんグリーティング
- 朗読会&お花の苗のお届け
(ディノス・セシールとコラボ企画)
- サザエさんグリーティング



14ヶ所 約 **1,600** 人を対象に実施

サザエさん、福島へ！

2015年1月12日、福島テレビが主催するFTVジュニアオーケストラ「NEW YEAR'S CONCERT2015」の終盤にサザエさんと福島テレビのキャラクター「ふくたん」が登場し、会場の皆さまにお米をプレゼントしました。



このお米は「サザエさん」放送開始45周年を記念して、青森県田舎館村で実施した「サザエさん」田んぼアートから収穫された「つがるロマン」で、オリジナルの米袋に詰め約800人のお客様やジュニアオーケストラの皆さんに手渡しました。また3月9日にも福島県富岡町の3ヶ所の幼保施設にお伺いし、「サザエさん上映会&グリーティング」を開催しました。



テレビ美術の力で復興支援

「テレビ美術の力」でもっと子どもたちを笑顔にしたい・・・

こども笑顔プロジェクト



フジテレビ美術制作局と美術関連協力会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地復興支援活動です。2014年度は宮城県名取市閉上のメイプル館と岩手県宮古市の魚菜市场で開催しました。テレビ美術の裏側を紹介しつつ、地元の子どもたちとのこぎり体験や輪ゴム鉄砲を作るコーナーも！さらに人気キャラクターに扮して写真撮影をするなど、テレビ局ならではの企画で多くの方々に楽しんでいただきました。

今後もこの「こども笑顔プロジェクト」を継続し、被災地の子どもたちに笑顔を届け、少しでも復興のお役に立てればと考えています。

- 第1回 2013年10月20日岩手県大船渡市
- 第2回 2014年4月20日宮城県名取市 閉上
- 第3回 2014年10月18日岩手県宮古市 魚菜市场



廃材を利用して輪ゴム鉄砲をつくるコーナー



プロによる本格的なメイク！



のこぎりで切れるかな？



サザエさんやバカ殿に扮して記念撮影



気がつくとスタッフも笑顔に♪



次世代支援

社会貢献

環境

視聴者とともに

災害復興支援

職場環境

コンプライアンス

国民のいのちを守るための防災報道

いざというときに国民が「命を守る」行動がとれるように、平時から防災対策を放送し続けています。災害の「警戒」「発生」情報が発表された時は、無用に不安をあおることなく視聴者に伝え、被害を抑制することを目指しています。

防災FNN「いのちを守る」

※FNN=フジニュースネットワーク

“災害の発生を防ぐことはできないが、被害を抑えることはできる…”
このコンセプトのもと2014年1月からスタートした「防災FNNいのちを守る」。
FNN系列各局と協力し「FNNスピーク」「ニュースJAPAN」「FNNスーパーニュースWEEKEND」で防災のための対策や知識をわかりやすくお伝えしています。
2015年3月末までで64回放送。(2013度25回、2014年度39回)

「そんな方法があったのか」と知っていただくことで、いざというときの「自助」になり、それがさらに地域で共有されれば「共助」へと発展します。これにより救える命は確実に増えるはず。ひとりひとりの備えと行動が災害時の「自助」となり、やがて「共助」「公助」へとなって私たちの生命と財産を守ることにつながることを願っています。



FNN大規模災害訓練放送



津波警報発表時に避難喚起

東日本大震災では避難すべき人が迅速に避難していたら被害者は大幅に減ったと言われています。津波警報や大津波警報が発表された場合、テレビを見ている人が、速やかに避難行動がとれるよう、テレビ画面に「今すぐ避難を！」を赤地に白抜き文字で大きく目立つように表示し避難を喚起しています。

系列各局と協力して毎年大規模な災害訓練放送を実施しています。2014年度は、遠州灘沖で東海地震が発生し、最大震度7、東海、関東、紀州半島沿岸を巨大津波が襲うという事態を想定して実施。フジテレビ、テレビ静岡、東海テレビ、関西テレビなどが中心となり、系列各局からも応援取材団を組んで多数の被災ポイントからの中継放送をシミュレートしました。訓練で浮かび上がった問題点を分析し改善を加えていきます。

FNN防災会議

FNNでは、系列各局の報道部門と技術部門の防災報道担当者が集まって年1回「防災会議」を開いています。災害発生時に国民の安全に役立つ情報を届けることは我々の責務であり、この会議はその原点を確認する場でもあります。

2014年防災会議 基調講演「いのちを守る災害情報と災害報道」 東京大学 定池祐季特任助教

2014年度は広島市の大規模土砂災害、御岳山噴火など大きな災害が相次ぎました。「メディアとして国民にどのような災害情報をどのタイミングで伝えるべきか」、また「大震災被災地の復興と風化」などについても専門家の話を聞き、議論しました。

災害報道に役立つ技術の開発 ※26年度の日本民間放送連盟賞 技術部門 優秀賞を受賞

FNS系列局の協力のもと、IP技術を用いてFNS28社を高音質・強固・シームレスに繋ぐ全国連絡網「ネットインカムシステム」を開発しました。通信回線2重化や東阪2局に基幹設備を置く世界初のサイトダイバーシティの実現により、激甚災害や電源喪失時にも円滑な放送運行・緊急災害報道へ対応でき、BCP対策としても有効です。

BCP対策・防災へのとりくみ

東日本大震災が発生した2011年から「防災ウィーク」と称し、社内で働く社員・スタッフを対象とした【防災訓練】をおこなっています。

2014年度は9月22日～26日と3月9日～13日の2回にわたり【実践】をテーマに【初動3時間】を意識した訓練と「自助・共助・公助」を社内に浸透させるとりくみを芝消防署の協力のもと開催しました。のべ約1,532人の社員・スタッフが参加し、過去最高の参加者数となりました。

■ フジテレビ流「自助・共助・公助」とは…

自助	自分の体は自分で守る
共助	冷静沈着で迅速な救助活動の実施
公助	放送を維持し長期的に被災者を支援する



JKB48 = J【自助】K【公助】B【防災コアメンバー】

■ 防災リーダー「JKB48」

各部門において防災リーダーとなる社員48人を選出。その名も「JKB48」

■ クライシス・マネジメントチームの発足と大規模地震対応模擬訓練

【実践】と【初動3時間】を想定した、発災後の初動対応をおこなう人事局・総務局メンバーを中心に構成されたクライシス・マネジメントチームを発足。大規模地震対応模擬訓練では「館内放送」「情報収集・整理」「指令・命令」など、初動に特化した訓練を実施しました。



防災ランド

「煙体験」や最新の「地震体験マシン」「非常食試食」「防災グッズ展示」など、災害に対する備えについて“見て”“感じて”“考えて”もらえるような「防災ランド」を設けました。

防災もしもツアーズ

本社ビルのほか、湾岸スタジオの災害備蓄品や設備の見学をするツアーを実施。



全社一斉総合訓練

講習・各種訓練

- 普通救命講習・再講習により社員、スタッフ合計312人が「心肺蘇生」「AED取扱い」「止血法」などの知識を取得。
- 負傷者を階段で降ろすことを想定し、階段避難車を使った訓練を実施。
- 初期消火のため、館内に備え付けられている消火器と消火栓の取り扱いを習得。
- 出退者支援訓練（徒歩・船舶）
- 全社一斉総合訓練

9月の防災ウィーク最終日には、事前に取り組んだ初期消火や負傷者搬送などの訓練の成果を発揮する全社一斉の総合防災訓練を実施。大地震発生瞬間への対応意識を高めることや、救護所へ負傷者を搬送するのトリアージ訓練、そして館内で火災が発生した想定で初期消火訓練や全館避難誘導訓練をおこなうなど、実践的な内容となりました。また、台場にお住まいの方々にご協力していただき、フジテレビに来場したお客様を想定した避難誘導訓練も実施。

フジテレビで働くすべての人が、災害時に放送局としての使命を果たすため、また来場された多くのお客様を守るために、これからも防災に対する意識と知識を高めていきます。

※これらの継続的なとりくみに対し芝消防署より「防災意識が高い企業」として、特別表彰されました。
(平成25年度)

多メディアで被災地情報を継続発信

発災当時の映像～その後～そして今を知りたい…
被災地情報をいつでもアクセス可能なインターネットでも提供

■ 岩手・宮城・福島 ローカルTime“FNN被災地発..”



未曾有の大災害から復興途上にある“被災地のいま”を継続的に伝えるため、岩手、宮城、福島3県内で放送されているローカルニュースを、FNNニュースサイトとYouTube FNN公式チャンネルを通じ、全国に向け毎日配信しています。被災地を遠く離れて避難生活を送る方々に、また被災地に家族や親類、知人がいて現地の状況を気にかけている方々に、今の被災3県の様子をより詳しく知る手助けになればと考えています。

▶特設サイト <http://www.fnn-news.com/localtime/>

■ 3.11 忘れない ～FNN東日本大震災アーカイブ～



東日本大震災に関する報道を目的に収集された大地震や大津波、それによる被害の実像等を伝える映像群をアーカイブ化し、日本語と英語の字幕表示も付けて、FNNニュースサイトとYouTube FNN公式チャンネルで全世界に向け公開しています。その映像は国立国会図書館と総務省がまとめた「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称 ひなぎく）」と連携し、広くアクセスできるようになっています。

▶You Tube公式チャンネル <https://www.youtube.com/user/FNN311>

■ 自然災害などの速報をプッシュ通知…「FNNニュース・アプリ」

政治・経済・社会・国際・スポーツ・エンタメ…毎日・時々刻々と発生するニュースをお手持ちのスマートフォンで手軽に視聴することができるニュース・アプリです。

地震・津波・気象・火山・河川…自然災害に関する情報も拡充し、ニュース速報など緊急性の高い重要な情報はプッシュ通知でお知らせしています。



その他のとりくみ

■ 「SMAP×SMAP」で震災の義援金・支援金募集の呼びかけを継続

“被災地を忘れてはいけない”という強い思いで、「SMAP×SMAP」（毎週月曜22:00～22:54放送）では、東日本大震災後の2011年3月21日の放送以降の全てのオンエアで「SMAP」メンバーによる支援金の呼びかけをおこなっています。

※2015年3月30日放送分で通算181回。2014年度は53回放送。

創造を生み出す活気ある 職場づくり

For Employees

FUJI TELEVISION NETWORK, INC.

社員ひとりひとりが充実した毎日を送れるよう、様々なとりくみを実施しています。企業にとって大切な財産である社員が十分に能力を発揮できるような職場づくりを目指しています。

新しい発想が生まれる環境づくり

「ダイバーシティ東京」オフィスタワー（江東区青海）内のオフィスは、働きやすさはもちろん、憩いと情報交換の場とするべく斬新なデザイン・レイアウトとなっています。

メインの中央スペースは、大きなシンボルツリーとバーカウンターのある「広場」。1人で集中してPC作業することも、大勢でリラックスタイムを持つことも可能で、新しい発想や活動が生まれるコミュニケーションセンターとなっています。



■ 「広場」から生まれた「モーニングセミナー」



社員およびスタッフの発想を刺激するための「モーニング・セミナー」を月に一回程度開催。今話題の人を講師に招き、毎回80人以上が参加しています。朝一番の時間帯から、「広場」に椅子を並べて、カジュアルな雰囲気の中でおこなわれる新しいスタイルのセミナーです。

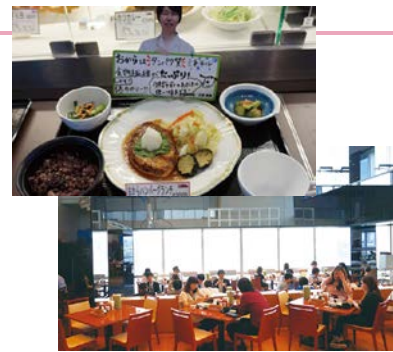
■ 遊び心のある空間づくり

シャンデリアのある会議室、フィギュアが飾られたスペース、ちゃぶ台のある畳コーナーなど、新しい発想が生まれるような個性的な空間が随所にあり、来訪者にも喜んでいただいています。



社内食堂

社員・スタッフの健康のため、社内食堂ではランチ時にサラダ・スープや、ヘルシーな「バランスごはん」を提供しています。また、番組・映画などと連動させたブームアップ企画や昭和女子大とコラボした「Health & Beauty Lunch」、寿司カウンターなどもあり、気分をリフレッシュできる楽しい食事の場となっています。



レインボーブリッジが一望できる開放感のある食堂

社内親睦・交流イベント

社内親睦ボウリング大会、社内交流イベント「チャリティ・ビアフェスタ」「チャリティ・ちょい呑みフェスタ」などを開催しています。



年1回、社内ボウリング大会を開催



社内交流とチャリティを兼ねたイベント（夏と冬）は大盛況！



社員の健康と社会貢献

■ 健康維持

健康相談センターでは、各種診療項目の診察のほか、常駐の産業医が社員と定期的に面談をおこない、きめ細やかに心身の健康管理をサポートしています。また、健康診断に加え、人間ドック、脳ドック、婦人科検診をおこない、社員の疾病予防に全力を注いでいます。「湾岸スタジオビル診療所」では、社員に加え一般の外来診療もおこない、地域医療の一助となっています。

■ がん検診受診率アップ企業アクションプランに参加

「がん検診受診率50%を3年以内に目指す」という厚生労働省の委託事業である国家プロジェクトに参加。早期発見・早期治療による人材損失の回避と経営基盤の強化を目指し推進パートナーとして検診受診を促進しています。

※「企業における乳がん・子宮頸がん検診実態調査」で、「大変優れている」企業として認定されました。厚生労働省 国立保健医療科学院 技術評価分野と特定非営利活動法人「子宮頸がんを考える市民の会」の共同調査（調査機関平成26年1～3月）

「どっこくん」でメタボ解消！

社内の20代男性社員のメタボ該当者が全国平均の2倍、30-40代も全国平均を上回っているという検査結果を受け、食育出前授業のキャラクター「どっこく



ん」を使ったメタボ解消企画を展開。トイレにステッカーを掲示し、バランスの良い食事や運動の大切さをアピールした他、若手メタボ社員による「どっこくん体操」を社内向けのモニターで流し注意喚起しました。

■ 歯の妖精「Tooth Fairy」プロジェクトに参加

日本財団が日本歯科医師会と協同しておこなっているプロジェクト。歯科治療で取り外した 撤去金属や入れ歯を寄付し、その中に含まれる金やパラジウムなどをリサイクルした資金で貧困や重い病気と闘う子どもたちを支援しています。

■ 献血の実施

血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力し、社内で献血活動を実施しています。

人材育成

■ 人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。新卒採用では、海外の大学を卒業する留学生や、日本の大学を卒業する外国人留学生の採用も実施しています。障がい者雇用についても積極的におこなっており、番組制作現場で働く社員もいます。また、仙台市を中心に、年1回～2回程度被災地及び周辺地域の学生に向けた就職会社説明会に参加しています。

■ 研修制度

社員ひとりひとりが、自らの成長を実感しながら日常の仕事にとりくめるよう様々な研修制度やセミナーの充実を図っています。

● フューチャーキャンプ

各年代の社員が参加するグループワーク研修。組織や年齢にとらわれず、未来のフジテレビのあるべき姿を社員全員が共有できるとりくみをおこなっています。



● フジ・メディア・エクステンション

グローバルな人材育成をめざすための海外研修制度。2014年はイギリスで10日間にわたり21人が「イギリスの動画配信とタイムシフト視聴」について先行事例を視察し、ビジネスチャンスを探るとともに人脈を広げました。



その他、新入社員教育の一環として社内のゴミが最終的に集まるストックヤードの見学をおこなったり、それぞれの階層で求められる知識獲得を目的とした入社年次別研修、各専門分野の講師を社内外から招き日常業務に活かせるような人事セミナーを開催しています。

働きやすさを支援する制度

■ 育児支援

最大2時間までの時短を、小学校1年生の5月末までの希望する期間取得できます。また、小学校の始期まで休職を取ることができます。復職前にはスムーズな職場復帰をサポートするため復職者懇談会をおこなっています。



先輩ママが実体験にもとづきアドバイス

■ 復職支援

長期の傷病休職から復職する際に、円滑に復職できるよう、復職支援制度を設けています。

■ 介護支援

家族に介護が必要になった場合、1年間の介護休業もしくは最大90分までの時短を取得できます。また、ケアワーカーの派遣料を補助するホームヘルプ制度もあります。

■ 社員の個人的な社会貢献の支援

社員が個人的に社会貢献をおこなう際、活動内容を会社に申請することで、活動のための休暇を取りやすくなるよう支援しています。

コーポレート・ガバナンス、内部統制、コンプライアンス&リスク管理、 情報セキュリティなどへのとりくみ

コーポレート・ガバナンス充実に向けての取組状況

フジテレビは、内部統制機能の整備推進を担う部署として、適正業務推進室内に番組考査等、番組を中心に担当する考査・放送倫理部、内部統制全般の構築と評価を推進する適正業務推進部、及び内部監査部門を設置し、業務適正化の確保と共に、各部門の課題等の迅速かつ社内横断的な解決に努めています。

リスクの管理

放送事業をおこなうフジテレビは、放送法をはじめとする法令等に基づき、高い公共性と倫理観を求められており、コンプライアンス及びリスクの管理に関する意識や使命感は高い水準にあるものと考えています。加えて、次頁の「内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況」の項目に詳述していますが、フジテレビは役職員が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守し、もって適正な職務執行が行なわれることを基本観とし、併せて、健全かつ誠実に行なわれている業務が滞ることなく機能する内部統制システムの構築に向け、社内における検討と意識の共有を図っています。具体的には、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」を策定し、コンプライアンス及びリスクの管理に関するプログラムを整備し、適法・適正で効率的な事業運営を管理する体制としています。

内部統制システムに関する考え方及びその整備状況－1

● 基本的な考え方

1. フジテレビは、放送法、電波法等及び放送に携わる者としての倫理観に基づき、業務の適正性が確保されるよう業務を遂行しています。そして、高い公共性と倫理観が求められている中、コンプライアンス及びリスクの管理に関する意識や使命感は、高い水準にあるものと考えています。これは、放送局を規制する法令等が目的とするメディアの公益性等の確保に対し、適正な業務の確保や企業価値を毀損させない業務遂行が相反するものではないためです。
2. 1を前提にして、内部統制システムについては、それが最適に機能するような整備・運用に務め、もって企業価値の向上につながる事が重要であると考えます。例えば、役職員の業務等を監視するシステムを構築する場合であっても、過度な監視により現状健全に行なわれている業務の停滞を招き、企業価値が毀損することがないように留意することも重要です。現状の企業価値の基礎である「現場における自由闊達な発想やチームワーク」といった当社の企業文化に、過度の悪影響を及ぼす可能性のあるシステムの導入には、慎重に対応する必要があると考えます。なお、役職員が日常の業務に対して、高い倫理観を持って臨む意識を醸成することが、必要不可欠であることはいうまでもありません。
3. 以上の考え方に基づき、適正な内部統制システムを整備・運用した上で、経営に重大な損失を与えるような事象を、未然に防止する事を目指す事が重要であると考えます。

● 整備状況（1）

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令等に適合することを確保するための体制及び損失の危険の管理に関する体制の概要
 - a. 取締役及び使用人は、フジテレビの経営理念・経営基本原則に基づいて制定した「フジテレビ行動宣言」を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。
 - b. フジテレビは、法令・定款遵守の実効性を確保するため、以下のとおり社内体制の整備等をおこないます。

<組織の構築>

代表取締役社長は、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」（②に記載）に基づき、コンプライアンス等責任者となり、関連業務を統括。代表取締役社長は、その補佐役としてコンプライアンス等担当役員を任命するとともに、各局からコンプライアンス等担当者を指名します。また、コンプライアンス等担当役員は、コンプライアンス等責任者が指名した委員によって構成されるコンプライアンス等委員会の長となり、コンプライアンス及びリスクの管理に関する対応策の検討並びに整備等をおこないます。

<体制の整備>

コンプライアンス等責任者は、健全におこなわれている業務に十分配慮しつつ、コンプライアンス及びリスクの管理の強化を図るための体制の整備に加えて、財務報告の信頼性を確保する為の内部統制システムの構築に勤めます。

<教育・研修>

適正業務推進室は、コンプライアンス及びリスクの管理について、※「コンプライアンス懇談会」「コンプラ・ワークショップ」「コンプライアンスeラーニング」など定期的な社内研修会のほかイントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載等を適宜実施し、取締役及び使用人の理解を促進する活動をおこないます。

また、コンプライアンス等担当者は、各部署内においてその意識を高める活動を展開することとします。

■ コンプライアンス懇談会

コンプライアンス懇談会は、社員や制作スタッフが日々疑問に思っているコンプライアンス事案について、その都度テーマに即したゲストを招き懇談する場です。2014年度は2回開催され、社長をはじめ100人を超える社員・スタッフが参加、質疑応答では活発な話し合いもおこなわれました。またその内容を後日イントラネットで公開しました。



■ eラーニング コンプライアンス研修

“考えながら”そして“楽しみながら”コンプライアンスの知識と意識を身につけてもらうことを目的に、社員のみならず、フジテレビで働く全スタッフを対象（計3,456名）に「eラーニング コンプライアンス研修」を実施しました。考査や法務、コンプライアンスの相談例を元に「具体的な問題」を多く導入、より実践的な研修を目指しました。受講率86.4%(社員に限ると98.5%)

■ コンプラ・ワークショップ

内外から講師を招聘してコンプライアンスにまつわる情報を提供する30~40人規模のアットホームなワークショップです。コンプライアンス意識の醸成や放送リテラシーの向上を目指し、2014年度は2回開催。

■ 番組制作向上ワーキンググループ

コンプライアンス委員会に紐づく形で2014年9月に発足した新しいワーキンググループです。制作現場に対して非制作セクションメンバーの“視聴者に近い率直な目”で、各番組の演出や具体的事例について忌憚のない意見交換をおこなう会議です。2014年度は3回開催。

内部統制システムに関する考え方及びその整備状況-2

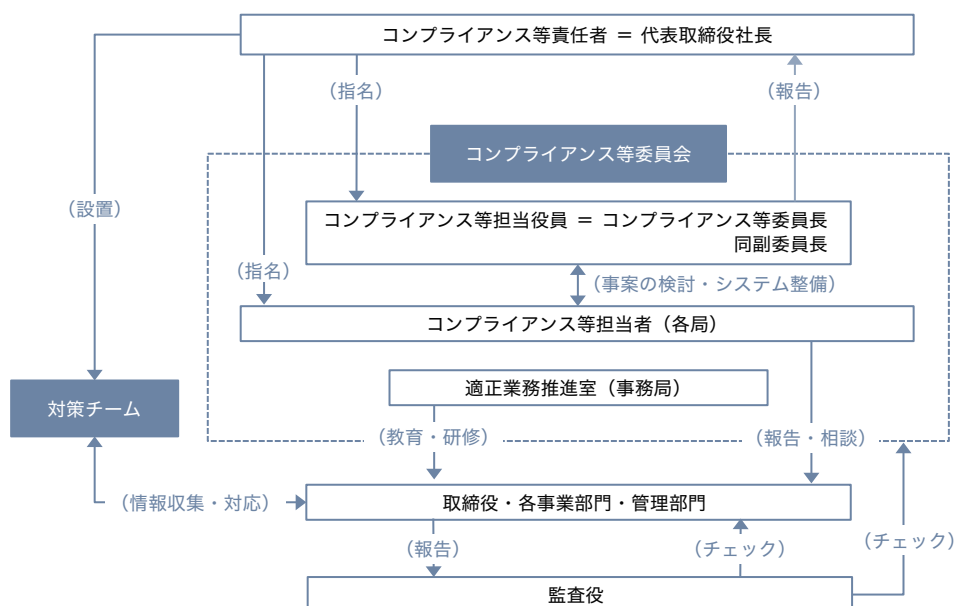
● 整備状況 (2)

2. 「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」の概要

当該規程では、コンプライアンス及びリスクの管理に関する基本理念やフジテレビの社員としての適切な行動を示すほか、各部署内において経営に重大な影響を及ぼす事案が生じた場合にコンプライアンス等責任者が対策チームを設置し、当該対策チームが情報収集及び対応策の検討等必要な一切の業務を行なう旨を定めています。

3. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制の概要

- a. 取締役及び使用人は、監査役に対し、以下に定める事項について発見次第、直ちに報告をおこないます。
 - ・業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実を知った場合。
 - ・取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実を知った場合または社会通念に反する行為が発生する可能性が生じた若しくは発生した場合で、当該事実または行為が重大である場合。
 - ・その他緊急・非常事態を知った場合。
- b. 取締役及び使用人は、監査役に対し各部門における主要事項及び内部統制に関する部門の活動概要などについて定期的または必要に応じて報告をおこないます。
- c. 取締役及び使用人は、監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。



● 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

フジテレビは、適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責務であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。前述のとおり、法令・定款遵守の実効性を確保するため、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」を設け、反社会的勢力との間における利益供与等の行為を一切おこなってはならないことを規定する等反社会的勢力からの不当な要求等に対し、毅然とした姿勢で臨んでいます。

また、制作セクション等においては、研修等を通じて反社会的勢力への対応を周知徹底しています。加えて、反社会的勢力に関する情報については、警察、弁護士等外部の専門機関と連携し、収集に努めています。今後も更なる規程や社内体制の整備に努める等、反社会的勢力との関係を遮断するための対応の強化を実行していきます。

公益性に基づくコーポレート・ガバナンス等の推進

フジテレビは、国民共有の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため、社会的インフラとしての役割、すなわち、基幹メディアとして緊急災害放送などライフラインの機能を維持し責任あるコンテンツを送り届けるという使命を果たすことも、フジテレビのコーポレート・ガバナンスを検討するうえで一つの基盤となります。

従って、これからもフジテレビは、放送の公共性を重んじ、もって社会的責任を全うする基本理念をいささかも揺るがすことなく、良質な経営を追求すべくコーポレート・ガバナンス等の在り方について不断の検討を続けていきます。

情報セキュリティ

フジテレビは「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、メディアを通じて人々に感動を与え、情報文化向上に寄与するという企業理念のもと、絶えず発信する豊かなコンテンツ（情報）資産を各種の脅威から守り、かつ、業務や番組制作において取得したすべての情報は重要かつ貴重な資産であるという認識にて、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。また、特に業務過程で取得した多くの個人情報については、「個人情報に関する基本方針（プライバシーステートメント）」および「フジテレビホームページに寄せられた個人情報の取扱と保護について」に基づき保護対策を講じるなど、情報セキュリティの適正な運用と管理を進めています。

フジテレビ情報セキュリティ基本方針

株式会社フジテレビジョンは、絶えず発信する豊かなコンテンツ情報の保全および当社が業務過程で取得した個人情報の保護を重要な経営課題と考えております。

当社はメディアを通じて人々に感動を与え、情報文化の向上に寄与するという企業理念の下、明るく、元気で、半歩先を行くフジテレビのDNAの結晶であるコンテンツ資産を各種の脅威から守り、多くの人々の個人情報にも十分な配慮をするため、ここに情報セキュリティについての基本方針を制定します。

● 情報のセキュリティ確保宣言

当社は、コンテンツ情報および個人情報（以下、「情報資産」という）の紛失、破壊、不当な改ざん、漏洩並びに不正アクセスの防止など、情報セキュリティの適正な運用と管理を目指します。そのため、情報セキュリティに関する具体的なルールを定め、役員、社員、その他の関係者に遵守させます。

● 法令等の遵守

当社は、表記の目的の下にブランドイメージをさらに高め、法令および当社が定めた情報管理諸規程を遵守することを宣言し、役員、社員、その他の関係者に周知するため必要な措置を講じます。

● 情報セキュリティ基本方針等の継続的改善

当社は、情報セキュリティ基本方針および情報管理規程をはじめとする情報関連の諸規程を社会情勢の変化に応じ、継続的に見直すとともに必要に応じて改善していきます。

<e-ラーニングで情報セキュリティ研修を実施>

2014年度は社員およびスタッフに情報セキュリティの重要性を啓蒙するために、e-ラーニングで情報セキュリティ研修を実施しました。また昨今流行している情報漏えいを防止するために、ウィルス標的型メールの体験型訓練を実施し、社員への注意喚起を促しました。

人権や児童・青少年への配慮

テレビは誰にでもアクセスできる最も身近なメディアであり、今や日常生活に密着して、国民にとって欠くことのできないメディアになっています。したがって、放送する内容が国民に与える影響は大きいものとなっています。フジテレビは、こうしたテレビの社会的な影響力の大きさを充分に認識し、放送内容が国民の基本的人権を擁護するものとなるよう心がけています。特に、人権や児童・青少年への配慮については、細心の注意を払っています。

フジ・メディア・ホールディングスのとりくみ

災害復興支援活動 「東北に春をお届けします。」

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

—— 16社で、福島・国道6号線沿いに桜の苗150本を植樹

(株)ディノス・セシールを事務局とし、福島県沿岸部の国道沿いに桜の苗木を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」の趣旨に賛同し、昨年から寄付を実施しています。2014年度は傘下の16社で150本の桜の植樹を支援。2015年1月14日に参加企業の有志16人で福島県双葉郡広野町を訪問し、その一部を実際に植樹しました。地元の方々に桜の成長を楽しんでいただき、2、30年後に桜の名所となるよう、今後もこの活動を継続していきます。



フジテレビ「ずっとおうえんプロジェクト」とコラボ

「東北に春をお届けします。」の一環として、宮城県沿岸部及び岩手県沿岸部の児童関連施設に15,000鉢のピオラの花の苗を届けました。4年目となる今年も、フジテレビとコラボし、岩手県大槌町の幼稚園・保育園3ヶ所にて、武田祐子アナウンサーによる春のお話の朗読やダンス、岩手めんこいテレビのキャラクターミット君とのふれあいを盛り込んだイベントを実施しました。



第40回ラジオ・チャリティ・ミュージックソン

ラジオを通じて寄付を募るニッポン放送の「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」に、フジ・メディア・ホールディングス各社の有志が毎年協力しています。2014年は傘下の17社から49人が参加し、リスナーからの電話による募金受付と屋外ステージでの街頭募金のお手伝いをしました。寄せられた募金は、「音の出る信号機」の設置や「立体コピー」など多数の視覚障がい者用教育機器などに使われます。



実施日：2014年12月24日正午～25日正午 / パーソナリティ：上戸彩 募金受付期間：2014年10月31日～2015年1月31日

最終募金額：**6,392万7,192円**

合同清掃活動

3月・7月・10月にフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集まり、お台場エリアの清掃活動をおこなっています。この活動は2012年10月から始まり、これまでに7回実施。今ではすっかり定着し、参加者も増えています。グループの“結束力”を感じる活動です。



フジサンケイグループとしてのとりくみ

フジテレビはフジサンケイグループの一員として以下の活動をサポートしています。

高松宮殿下記念世界文化賞

高松宮殿下記念世界文化賞

PRAEMIUM IMPERIALE

IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。

賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。これまでの受賞者数は26ヶ国、134人で、フジテレビは同賞の趣旨に賛同し、創設以来社を挙げてサポートしています。



高松宮殿下記念世界文化賞特番を放送 放送日：2014年10月22日 24：35～25：05

詳しい内容については公式HPをご覧ください。 ▶ <http://www.praemiumimperiale.org/>

地球環境大賞

第23回
地球環境大賞
Since 1992

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金（WWF）ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。2014年4月10日には、第23回目目の贈賞式がおこなわれ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジテレビは、この「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。



地球環境大賞2014・特別番組「迫る危機から未来を救う」を放送 放送日：2014年6月22日 13:00～14:00

詳しい内容については公式HPをご覧ください。 ▶ <http://www.fbi-award.jp/eco/>

フジサンケイグループ広告大賞

美術館支援

「フジサンケイグループ広告大賞」は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与するべく、1971年にフジテレビを中心としてフジサンケイグループ各社により創設されました。フジテレビはグループ各社と協力して賞の運営をおこない、2014年で43回目の贈賞式を無事終えました。

フジサンケイグループの公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団が運営する「彫刻の森美術館」「美ヶ原高原美術館」、また公益財団法人 日本美術協会が運営する「上野の森美術館」に対し、フジテレビはグループ各社と連動し芸術文化活動の普及に寄与すべく開館時より様々な支援をおこなっています。

音楽関連支援

赤ひげ大賞

音楽を通じて豊かな日本社会の実現に寄与すべく「公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団」、「公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団」、また「公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団」に対し、サポーターとして支援を続けています。

地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社）は2012年に創設され、2014年10月に第3回表彰式がおこなわれました。フジテレビでは、この顕彰制度の趣旨に賛同し後援するとともにニュース等で報道し、有意義なこの活動をサポートしています。

会社概要

商号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 03-5500-8888 (大代表)
設立	平成20年10月1日 (新設分割による)
放送開始	昭和34年3月1日
資本金	88億円
従業員数	1,373名 (2015年3月31日現在)
代表取締役社長	亀山 千広

2015フジテレビCSR報告書

■対象期間

2014年4月1日—2015年3月31日

■発行時期

2015年6月

ホームページでもCSRに関する情報を開示しています。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/>



